

入 来 家 文 書

(採訪時住所 鹿兒島県日置郡串木野村上名)

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
1	天正 16	1588			8	5	風呂記	伊勢因幡入道如芸	伊勢兵部少輔殿	縦帳	1	虫損多し。修正液使用跡あり。書写年はかなり新しいものか	123
2	延宝 7	1679			1	9	先君遺簡			縦帳	1	後欠カ	98
3	享保 7	1722	寅		9	7	高麗御陣御供衆日記写	岡塚二右工門㊟	黒田与市左衛門殿	横帳	1		140
4	元文 4	1739	未		11	4	薩摩藩郷村高帳		主入来氏	縦帳	1	原藤兵衛の書を借写	99
5	延享 3	1746					寅秋米雑穀取納庭帳	入来伊兵衛殿		横帳	1	虫損多し。綴じ位置に竹の補強あり	146
6	安永 2	1773	巳				巳秋米雑穀取納庭帳	入来伊兵衛		横帳	1	虫損多し。綴じ位置に竹の補強あり	147
7	安永 5	1776	申		5	18	めさまし草（目覚まし草, 寛永第二季春日烏丸大納言光廣）	入来伊兵衛定計		縦帳	1	湊町実右衛門より借用し入来伊兵衛が書写とあり	10
8	安永 6	1777			2	28	披露書留（是非無く打果候につき, 口上覚他12通写）	入来氏		縦帳	1		15
9	安永 6	1777					酉秋米納割符横折	入来伊兵衛		横帳	1	虫損多し。綴紐部分に竹の補強あり	148
10	安永 7	1778			8	14	御家御代々御法名記			縦帳	1		101
11	天明 4	1784			9		京女海陸詠歌并日記写			横半帳	1		163

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
12	天明 6	1786	午				午秋田方取納庭帳	入来七郎右衛門		横帳	1	綴紐部分に竹の補強あり	149
13	天明 7	1787	未		1		(利取納帳)			横帳	1	13-1-1は本文書に挟み込まれている。付箋あり	80
13			午		12	29	(利分明細)			切紙	1	13-1に挟み込まれている。「児玉清兵衛」とあり。帳面の一部か	80
13	文化13	1816	子		12		利取納帳	入来伝兵衛		横帳	1	付箋あり	80
13	天保 2	1831	卯		1	29	天保二年卯年分 利取納帳	入来伝兵衛		横帳	1	付箋あり。「天保二年卯正月廿九日相渡」とあり	80
14	寛政 4	1792	子				取納米庭帳	入来伊兵衛		横帳	1	虫損多し	150
15	寛政 8	1796	辰		8	25	江戸御留主中諸事承控帳	児玉孝左衛門		縦帳	1	「琉人鹿児嶋御立九月朔日」とあり	91
16	寛政12	1800	庚申		6	5	家流問答 (入来家流儀の大意)	伊勢隼之介 貞皎 判	日高雲兵衛殿, 入来休右衛門殿	縦帳	1	同一内容の写本2冊同封。ただし1冊は日高雲兵衛殿宛でもう1冊は入来休右衛門宛。元々は宝暦8年戊寅正月6日に伊勢平蔵貞丈が記したものの。年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	119
17	寛政12	1800	庚申		8	17	習礼抄	伊勢隼之介 貞皎 判	入来休右衛門	縦帳	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	124

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
18		寛政12	1800	庚申		10	24	故実雑集	伊勢隼之介 貞皎 判	入来休右衛門殿	縦帳	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者。天明5年乙巳8月5日に伊勢万助貞春が伊勢直に伝えた」と記される	118		
19		寛政12	1800	庚申		11	26	魚板記	伊勢隼之介 貞皎 判	入来休右衛門殿	縦帳	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	126		
20		寛政12	1800	庚申		11	26	諸家参會記 全	伊勢隼之介 貞皎 判	入来休右衛門殿	縦帳	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	131		
21		寛政12	1800	庚申		12	17	名所記	伊勢隼之介 貞皎 判	入来休右衛門殿	縦帳	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	134		
22		寛政12	1800	庚申		12	27	陪膳記	伊勢隼之介 貞皎 判	入来休右衛門殿	縦帳	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	128		
23	1	享和 1	1801	辛酉		12	7	武雄書札大概之篇	伊勢雅楽貞皎 判	入来傳兵衛様	縦帳	1	23-2は本文書に挟み込まれている	117	1	
23	2							(断簡、書札礼の一部カ)			縦帳	1	23-1に挟み込まれている	117	2	
24		享和 1	1801	辛酉		12	19	貞宗朝臣弓馬返答	伊勢雅楽貞皎 判	入来傳兵衛様	綴帳	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	110		
25		享和 2	1802	壬戌		3	9	公方様正月御事始之記	伊勢雅楽貞皎 判	入来傳兵衛様	縦帳	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	105		
26		享和 2	1802	壬戌		3	9	座敷の御かさりの事	伊勢雅楽貞皎 判	入来傳兵衛殿	縦帳	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	127		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
27		享和 2	1802	壬戌		6	13	簾中舊記	伊勢雅楽貞皎 判	入来傳兵衛様	縦帳	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	120		
28		享和 2	1802	壬戌		6	13	女房方故実	伊勢雅楽貞皎 判	入来傳兵衛殿	仮綴	1	年代は筆写時のもの。作成者欄は筆写者	129		
29		享和 3	1803	亥		12		萬取入残附留横折			横帳	1		82		
30		文化 8	1811	未	閏	2		記行（吟行記）	定静		横半帳	1		114		
31		文化 8	1811	未				取納米庭帳	入来傳兵衛		横帳	1		151		
32		文化 9	1812			3	19	（利分取納帳）			横帳	1		203		
33		文化 9	1812	壬申				殊号事略 上	藤原安明（花押）		縦帳	1	「日本天皇之事」とあり。 「此一巻山田左衛門殿刊致借用文化九壬申之年初冬之未写之置地本者二巻ニ而御□為一巻者也」とあり	97		
34		文政11	1814	丙子		3	12	他見無用（藤賢先生万喞集）	此主 和泉伊三右衛門		縦帳	1		104		
35		文化11	1814	戌		12	19	銭貸付帳	入来伝兵衛		横帳	1	35-1~9は本文書に挟み込まれている。付箋あり（金銭貸付につき覚など）	76	1	
35	1			子		12	29	（金銭借用につき覚）			切紙	1	35に挟み込まれている	76	1	1

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
35	2						9	24	覚（金銭借用につき書付）			切紙	1	35に挟み込まれている	76	1	2
35	3				丑		3	23	以上（金銭借用につき覚）			切紙	1	35に挟み込まれている	76	1	3
35	4				子		11		（金銭借用につき書付）			切紙	1	35に挟み込まれている。帳面の一部か。冒頭に「仙龍坊」	76	1	4
35	5								（金銭借用につき覚）			切紙	1	35に挟み込まれている。「小嶋仙龍」とあり	76	1	5
35	6				亥		12	26	（金借用書カ）			切紙	1	35に挟み込まれている。冒頭に「亥十二月廿六日」。済文書	76	1	6
35	7				亥		12	20	（断簡, 金借用書カ）			切紙	1	35に挟み込まれている。済文書	76	1	7
35	8				子		11	30	（金借用書カ）			切紙	1	35に挟み込まれている。帳面の一部か。済文書	76	1	8
35	9				丑		2	3	（断簡, 借用書カ）			切紙	1	35に挟み込まれている。冒頭に「丑二月三日かり」	76	1	9
36	1		文化13	1816	子		7	23	（御富家島津家由緒等書付）	藤原正辰書ス		縦帳	1		111	2	
36	2								御富家御系図并御法度			綴帳	1		111	1	
37	1		文政 3	1820	辰		12		（断簡, 田畠取納帳の一部カ）			折紙	1		201	49	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
37	2	文政 9	1826				1	(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	21	
37	3	天保 3	1832	辰			3	(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	23	
37	4	天保 5	1834	午		12	晦	(金銭借用につき覚)			切紙	1	帳面の一部か, 前欠カ	201	19	
37	5	万延 1	1860	申	閏		3	下人五右衛門借用留並ニ清右衛門 次郎方迄此帳ニ留	入来八四郎		横帳	1		201	26	
37	6	慶応 1	1865	丑			秋	田島取納帳	入来伊右衛門		横帳	1	綴紐の近くに同一の印が2ヶ所捺印されている	201	34	
37	7					7	28	(書類2通への印形捺印の件につき書状)	金丸綱介カ	(入来伊右衛門カ) 門様	切紙	1	虫損多し。追而書き部分に「極々御大病ニ付御家内中様事嘸々御念奉察候〜御療養水留入存カ候」	201	1	
37	8							(断簡, 帳簿の一部カ)			折紙	1		201	2	
37	9							(白紙)			便箋	1	罫紙用箋11枚	201	3	
37	10							(封筒)			封筒	1		201	4	
37	11							(帳簿断簡)			継紙	1	「晋書律曆志曰。入学図説曰」等とあり	201	5	

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
37	12								(書状断簡)			切紙	1		201	6	
37	13								(和歌集断簡カ)			縦紙	1	綴紐らしきものが付着	201	7	
37	14								(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	8	
37	15								(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	9	
37	16								(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	10	
37	17								(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	11	
37	18								(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	12	
37	19								(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	13	
37	20								(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	14	
37	21								(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	15	
37	22								(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	16	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
37	23							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	17	
37	24							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	18	
37	25							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	20	
37	26							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	22	
37	27							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	24	
37	28							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	25	
37	29							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	27	
37	30							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	28	
37	31							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	29	
37	32							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	30	
37	33							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	31	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
37	34							(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	32	
37	35							(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	33	
37	36							(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	35	
37	37							(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	36	
37	38							(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	37	
37	39							(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	38	
37	40							(和歌短冊, 浦霞)	松山		切紙	1		201	39	
37	41							(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	40	
37	42							(和歌短冊, 新樹)	松山		切紙	1		201	41	
37	43							(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	42	
37	44							(断簡, 田畠取納帳の一部カ)			折紙	1		201	43	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号	
37	45							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	44
37	46							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	45
37	47							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	46
37	48							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	47
37	49							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	48
37	50							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	50
37	51							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	51
37	52							(断簡, 田島取納帳の一部カ)			折紙	1		201	52
37	53					6	24	覚 (金銭貸借につき覚カ)			切紙	1		201	53
37	54							(断簡, 米銭貸借につき覚カ)			切継紙	1	帳面の一部か。 「去ル未年」と あり。端裏に 「大口之源兵衛 かり分」	201	54
37	55							(和歌解説カ)			切紙	1	付箋あり	201	55

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
37	56			亥		12	22	覚（借用6貫文のうち口貫536文不足につき）			切紙	1		201	57	
37	57							（和歌短冊，入来定保の許を尋ねる）	親善		切紙	1	和紙か。短冊の上部と下部に波模様の装飾あり	201	58	
37	58							（断簡，田島取納帳の一部カ）			折紙	1		201	59	
37	59							（断簡，田島取納帳の一部カ）			折紙	1		201	60	
37	60							（断簡，田島取納帳の一部カ）			折紙	1		201	61	
37	61							（断簡，田島取納帳の一部カ）			折紙	1		201	62	
37	62							（断簡，田島取納帳の一部カ）			折紙	1		201	63	
37	63							（断簡，田島取納帳の一部カ）			折紙	1		201	64	
37	64							（断簡，田島取納帳の一部カ）			折紙	1		201	65	
37	65							（断簡，田島取納帳の一部カ）			折紙	1		201	66	
37	66							（断簡，田島取納帳の一部カ）			折紙	1		201	67	
38		文政 4	1821			1	14	吉貴公御袖判并每朔御條書 重豪公仰出 齊宣公仰口 附武家諸法度			縦帳	1		13		

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
39	文政 4	1821	巳		1		錢貸付帳			横帳	1	付箋あり	77
39	1	文政 4	1821	巳	1		(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「八月 <small>ぶ</small> 十二月迄五ヶ月分」とあり。文政四年巳正月～天保三年辰十二月迄	77 1
39	2	文政 4)	1821	巳	5	6	(錢貸付帳の付箋カ)		平之御梅との	切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「巳五月六日分金子壹両」とあり	77 12
39	3	文政 5)	1822	午	2	12	(錢貸付帳の付箋カ, 書状, 塩浜 島買入につき)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。朱筆	77 15
39	4	文政 5)	1822		12	31	(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「午十二月晦 <small>ぶ</small> 未正月四日分」(文政五年)とあり	77 2
39	5	文政 6)	1823	未	9		(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77 19
39	6	文政 8)	1825	酉	12	24	(金銭貸借につき書付)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。帳簿の一部か	77 33
39	7	文政 9)	1826	戌			(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「戌十一月分 亥六月迄 八ヶ月分 利分四貫六百六十四文」とあり	77 10
39	8	文政10)	1827	亥	7	24	(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77 18

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
39	9	文政10)	1827	亥				(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「来亥秋の利米之分」・「羽嶋口え喜兵衛」とあり	77	3	
39	10	文政11)	1828	子		7	11	(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「元利五十貫文荒川村」とあり	77	20	
39	11	文政12)	1829	丑		10	23	以上(錢貸付帳の付箋カ, 貸付金覚の一部カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「丑十月廿三日」(文政十二年カ)とあり	77	4	
39	13	天保 3)	1832	辰		5	5	(断簡, 貸付金覚の一部カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「辰五月五日」(天保三年カ)とあり	77	6	
39	14	天保 3)	1832	辰		7	8	(断簡, 貸付金覚の一部カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。日付の下に「庄兵衛より入」, 「辰七月八日 庄兵衛らゝ入」(天保三年カ)とあり	77	5	
39	15			巳		2	9	覚(金銭返済につき副状カ)	入来甚圓	入来傳兵衛様	切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	29	
39	16			丑		2	22	(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	21	
39	17			子		2	28	(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	28	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
39	18					3	2	(金子六両借用願いにつき書状)	加藤充左衛門	入来傳兵衛様	切紙	1	39の横帳の袋綴じ部分に挟み込まれている	77	41	
39	19			亥		3	14	(去成年上納不足代金のことにつき覚)	久保之与兵衛カ		切紙	1	39の横帳の袋綴じ部分に挟み込まれている	77	42	
39	20			申		4	24	覚(金銭借用につき)	嶋口渡之喜兵衛次カ	伝兵衛カ	切継紙	1	39の帳簿の袋綴じ部分に挟み込まれている	77	39	
39	21					4	26	(断簡, 貸付金覚の一部カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	7	
39	22					5	3	(金銭借用願いにつき書状)	下名村小触カ, 次兵衛, 休左衛門	口林二面 入来傳兵衛様	切継紙	1	39の横帳の袋綴じ部分に挟み込まれている	77	43	
39	23			辰		5	10	(銭貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	27	
39	24					7	25	(銭貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	16	
39	25			子		8	16	覚(金銭貸借等につき算用)		与左衛門カ	切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	32	
39	26					8	27	(銭貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	23	
39	27					11	6	覚(内入金覚カ)			折紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	36	
39	28			辰		11	23	(金銭借用につき覚)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	45	
39	29			巳		12	18	以上(金銭返済につき覚)	長仲左衛門	入来傳兵衛様	切紙	1	39の横帳の袋綴じ部分に挟み込まれている	77	44	

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
39	30				酉		12	20	覚出（なげあみ用岩代分借用につき）	あミ主 入枝采女（印）	入来傳兵衛殿	切紙	1	39の横帳の袋綴じ部分に挟み込まれている	77	40	
39	31				亥		12		（錢貸付帳の付箋カ）		宮地直之助様	切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「亥十二月借用之本分 拾貫文」とあり	77	22	
39	32				巳		12		（錢貸付帳の付箋カ）		喜助カ	切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	30	
39	33								（錢貸付帳の付箋カ）			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「十月分三ヶ月分 利分貳貫文」とあり	77	8	
39	34								（錢貸付帳の付箋カ）			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「三ヶ月分 利分 貳百四十八文」とあり	77	9	
39	35								（錢貸付帳の付箋カ）			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「二ヶ月分 利分百文」とあり	77	11	
39	36								（錢貸付帳の付箋カ）			切紙	1	39の帳簿に挟み込まれている	77	13	
39	37								（錢貸付帳の付箋カ）			切紙	1	39の帳簿に挟み込まれている。「口内半左衛門分」とあり	77	14	
39	38								（錢貸付帳の付箋カ）			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「七月より十二月迄六ヶ月一貫貳百文、利分貳貫文」とあり	77	17	
39	39								（貸付金覚カ）			切紙	1	39に挟み込まれている。	77	24	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号				
39	40							(付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「但 つり分四百文相渡,直二覚左衛門殿二渡ス」とあり	77	25			
39	41							(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	26			
39	42							(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている	77	31			
39	43		1828					(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「子十月晦日取」等とあり	77	34			
39	44		1828					(錢貸付帳の付箋カ)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「子七月五日」とあり	77	35			
39	45							(肉入金覚の断簡)			切紙	1	39の横帳に挟み込まれている。「亥 四月五日」・「返済」・「戻り銀」等とあり	77	37			
39	46							(貸付金,亥5月決済につき覚)			折紙	1	39に挟み込まれている。「午十二月廿」(文政五年カ)とあり	77	38			
40	1	1	天保 4	1833	巳	1	16	貸付附帳(天保4年巳1月16日~天保15年辰12月20日迄)	入来傳兵衛		横帳	1		78	1	1		
40	1	1					4	26	請取(抱地代金につき覚)	谷山正左衛門	入来傳兵衛様	切紙	1	40-1-1の横帳の袋綴じ部分中にあり	78	1	1	3
40	1	2					5	20	口上(金子借用願いにつき書状)	児玉幸左衛門	入来伊兵衛様	切継紙	1	40-1-1の横帳の袋綴じ部分中にあり	78	1	1	7

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号			
40	1	3	3			巳		5	24	請取（抱地高代金借用につき覚）	谷山正左衛門	入来岱圓様	切紙	1	40-1-1の横帳の袋綴じ部分中にあり	78	1	1	2
40	1	4	4					7	8	（金銭借用, 御馳走お礼等につき書状）	入来覚右衛門	入来傳兵衛様	継紙	1	紙背に金銭返済などにつき書付あり。40-1-1の横帳の袋綴じ部分中にあり	78	1	1	4
40	1	5	5			巳		10	20	（抱地高代金請取状覚）	谷山正左衛門	入来岱圓様	切紙	1	40-1-1の横帳の袋綴じ部分中にあり	78	1	1	1
40	1	6	6			丑		12	23	覚（借用の金子返済などにつき書状）	田代善兵衛	入来傳兵衛様	切紙	1	虫損多し。40-1-1の横帳の袋綴じ部分中にあり	78	1	1	6
40	1	7	7					12	29	（金銭借用などにつき書状）	宮地	入来伊兵衛様	切紙	1	虫損多し。40-1-1の横帳の袋綴じ部分中にあり	78	1	1	5
40	1	2		天保 3	1832	辰				貸付銭返済帖月書抜留（天保3年2月5日～弘化元年12月30日迄）	入来傳兵衛		横帳	1		78	1	2	
40	2			天保12)	1841	丑		3	2	（銭三貫文常用願いにつき書状）	藤兵衛	伊兵衛様	切紙	1	「御院京様」・「仲左衛門」なる人物記載あり	78	2		
41				文政13	1830					御儉約二付き諸人申出留（御記録奉行による諏訪社来歴及び儉約掛諸人上申につき）	串木野郷士, 入来傳兵衛		縦帳	1	末尾に文政13年に鹿府梅北氏より借用し入来傳兵衛が書写の記述あり	21			
42				文政13	1830					取納米庭帳	入来傳兵衛		横帳	1		152			
43				天保 3	1832	辰		12		（利分取納帳）			横帳	1		204			

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
44		天保 3	1832	辰		12		(利分取納帳)			横帳	1		205		
45		天保14	1843	卯		11	6	親父傳兵衛不幸二付香典留帳	入来伊兵衛, 入来五兵衛		横帳	1		206		
46		天保15	1844					御役順・御一門御元服之次第	橋口宗一郎		横半帳	1		102		
47		弘化 2	1845	巳		2		銭貸附帳	入来伊兵衛		横帳	1		79	1	
47	1					5	25	(金子1両借用願につき書状)	金丸諸兵衛	入来伊兵衛	切紙	1	47の帳簿袋綴じ部分中にあり	79	1	2
47	2					10	13	口上(金銭借用願いにつき)	児玉幸左衛門	入来伊兵衛様	切紙	1	47の帳簿袋綴じ部分中にあり	79	1	5
47	3			戌		11	16	證文(金子1両借用につき)	金丸諸兵衛	入来伊兵衛様	切紙	1	47の帳簿袋綴じ部分中にあり	79	1	4
47	4			酉		11	22	請取(出府金子30両借金につき)	田代喜兵衛	入来伊兵衛様	切紙	1	47の帳簿袋綴じ部分中にあり	79	1	1
47	5			戌		11	29	(金銭貸借の事につき覚)	入来伊兵衛	児玉直八様	切紙	1	47の帳簿袋綴じ部分中にあり	79	1	3
47	6					12	29	口上(金子借用につき)	金丸諸兵衛	入来伊兵衛	切紙	1	47の帳簿袋綴じ部分中にあり	79	1	6
47	7							(借用金子返済につき覚)			切紙	1	47の帳簿袋綴じ部分中にあり。「辰五月廿九日役カ人へ直渡」とあり	79	1	7

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
47	8							(金子借用につき覚カ)			切紙	1	47の帳簿袋綴じ部分中にあり。「右者十二月十二日 渡済入江之幸左衛門」とあり	79	1	8
47	9	弘化 3)	1846			1	27	(断簡, 銭貸附帳の一部カ)			切紙	1	47の帳簿に挟み込まれている	79	3	
47	10	弘化 3)	1846	午		12		(断簡, 銭貸附帳の一部カ)			切紙	1	47の帳簿に挟み込まれている	79	2	
47	11	弘化 4)	1847	未		6	27	覚 (金子借用につき)	入来伊兵衛	山口川カ庵様	切継紙	1	47の帳簿に挟み込まれている, 帳面の一部	79	6	
47	12	嘉永 6)	1853	丑		5	27	覚 (金子2両2歩借用につき)	松和カ田数右衛門	入来伊兵衛様	切紙	1	47の帳簿に挟み込まれている	79	7	
47	13					12	20	覚 (貸付金控)			仮綴	1	47の帳簿に挟み込まれている	79	5	
47	14							覚 (金子3文借用につき)	児玉半幸カ左衛門 用	入来伊兵衛様	切紙	1	47の帳簿に挟み込まれている	79	4	
48		弘化 4	1847	未		12		利分取納横折帳	入来伊兵衛		横帳	1	付箋あり	81		
49	1	嘉永 1	1848	申				金銭取替帳	入来五兵衛		横帳	1	綴紐に断簡紙片が結び付けられている	180	1	
49	2							(金銭関係につき覚)			切紙	1		180	2	
49	3							(金銭関係につき覚)			切紙	1		180	3	

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
50	嘉永 2	1849	酉		1		金銀錢出入横折帳	入来伊兵衛		横帳	1		181		
51	嘉永 2	1849					田畑取納帳	入来伊兵衛		横帳	1		153		
52	嘉永 3	1850	戌		1		金銭出入帳	入来伊兵衛		横帳	1		182		
53	1	1	明治15	1882	午		明治十五 午年 田畑取納帳	入来定穀, 入来助次郎		横帳	1	付箋あり	72 4 1		
53	1	2	明治15	1882	午	閏	9	明治十五 午旧 九月改 田畑取納庭帳	入来定穀, 入来助次郎		横帳	1		72 4 2	
53	1	3	嘉永 3	1850	戌	5	25	記 (貸付金控カ)		切継紙	1	53-1-1の帳簿に 括り付けられて いる	72 4 3		
53	1	4						記 (小作料不納分覚)		切紙	1	53-1-1の帳簿に 括り付けられて いる	72 4 4		
53	2		明治14	1881	巳	閏	9	18	明治十四年 巳秋 田畑取納庭帳	入来定穀, 入来助次郎		横帳	1		72 2
53	3		明治14	1881	巳				明治十四年 巳年 田畑取納帳			横帳	1	虫損多し	72 1
53	4		明治14	1881	巳				明治十四 巳年 田畑取納帳	入来定穀		横帳	1	付箋あり	72 3
54	嘉永 3	1850	戌		12		利銭取調帳	入来伊兵衛		横帳	1		183		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
55		嘉永 4	1851	亥		4	5	上名神子木場山杉木配方二付自分木数留	入来伊兵衛		横帳	1		250		
56		嘉永 4	1851			4	5	上名神子木場山杉木配方二付木数留控	入来伊兵衛		横帳	1		252		
57		嘉永 4	1851	亥				田畠取納帳	入来伊兵衛		横帳	1		154		
58		嘉永 5	1852	子				取納米庭帳	入来伊兵衛		横帳	1		155		
59	1	嘉永 6	1853	丑				田畠取納帳	入来伊兵衛		横帳	1		156	1	
59	2	嘉永 7	1854	寅				田畠取納帳	入来伊兵衛		横帳	1		156	2	
60		安政 3	1856	卯			1	廟堂要覽（安政3年卯正月～7月迄、嶋津氏の廟堂についての由緒写）	主 良能 [㊦] （花押）		横帳	1	奥書に「此本書鹿兒嶋士別府善左衛門拵合之處借用いたし書写者也」	93		
61		安政 3	1856	辰				田畠取納帳	入来五兵衛		横帳	1		157		
62	1	安政 3	1856	辰				田畠取納帳	入来伊兵衛		横帳	1		158	1	
62	2	安政 4	1857	巳				田畠取納帳	入来伊兵衛		横帳	1		158	2	
63		安政 3	1856	辰				請取拂帳	入来五兵衛		横帳	1		207		

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
64	安政 4	1857	巳		12		利分取調帳	入来伊兵衛		横帳	1		184
64	1		午		5	28	受取口（金銭借用につき覚）	前原之善カ八		切紙	1	64の横帳に挟み込まれている。付箋か	184 2
64	2		巳カ		12	29	覚（借用銭につき）	入来伊兵衛	千竈藤兵衛様	切継紙	1	64の横帳に挟み込まれている	184 1
64	3						（奉公日雇賃差引きにつき覚）	前原之善八		切紙	1	64の横帳に挟み込まれている	184 3
65	安政 5	1858	午		1	吉	銭貸附帳	入来伊兵衛		横帳	1		185
65	1		未		5		証文（25貫文借用につき）	かり主 口（川）村五右工門	入来伊右衛門殿	切紙	1	65の横帳に結びつけられている	185 1
66	安政 5	1858	午		2		神子木場山と子杉松木覚控帳	入来伊兵衛		横半帳	3		249
66	1				3	19	（普請入用, 木材売却の件につき書状）	口左衛門	伊兵衛殿	縦紙	1	66の帳簿に括られている	249 1
66	2						（松等木材寸法, 本数等書上）			切紙	1	66の帳簿に括られている	249 2
67	安政 5	1858	午		3	吉	金子出入改帳	入来伊兵衛		横帳	1		186
67	1		未				（断簡）			切紙	1	67の横帳に挟み込まれている。「未三月掛分」とあり	186 1

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
68		安政 5	1858	午				取納米庭帳	入来伊兵衛		横帳	1		159		
69		安政 6	1859	未				田畠取納帳	入来伊兵衛		横帳	1		160		
69	1							(田畠取納覚)			切紙	1		160	1	
70		安政 7	1860	申		3	16	旅日記	入来伊右衛門		横半帳	1		165		
71		安政 7	1860	申	閏	3	18	実父江戸出府留守中諸取払帳	入来八四郎		横帳	1		187		
71	1					5	26	覚(綿布他代10貫636文支払いにつき)	小口(指カ)太郎	入来様	切紙	1	71の帳簿に挟み込まれている	187	1	
72		安政 7	1860	申	閏	3	20	九州路継人足帳	薩州 宮原良右衛門, 入来伊右衛門		横半帳	1		166		
73		万延 1	1860	申		12		申四月拾貫文掛取入借付帳	入来内隠居 さとみ		横帳	1	綴紐に包紙に入った証文2通あり	189		
73	1	万延 1	1860	申		9	15	書物(金子6両借用につき)	借主 藤右衛門㊦	入来彦吉様	切紙	1	73の帳簿に括り付けられている	189	2	
73	2			申		□	15	証文(定座掛銭につき)	座元 萬兵衛㊦	入来彦吉様	切紙	1	73の帳簿に括り付けられている	189	3	
73	3							(包紙)		入来彦吉殿	切紙	1	金子証文2枚在中	189	1	

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
74	安政 7	1860	申	閏	3	吉	おつゆ婚礼二付到来物留	入来伊右衛門		横帳	1		208
75	万延 1	1860			12	吉	申十二月利分取納帳 平十月四五金分出入帳	入来伊右衛門		横帳	1		188
76	安政 7	1860	申	閏	3	18	実父江戸出府留守中米粟代分并二借付分取納帳	入来八四郎		横帳	1		209
76	1			閏	3	28	覚（米8俵, 代銀45貫600文につき）		入来様	切紙	1	76の横帳に括られている	209 2
76	2						（金銭等覚）	入来八四郎殿		切紙	1	76の横帳に括られている	209 1
77	万延 1	1860	申				浪士差出書 完			縦帳	1		106
78	万延 1	1860	申				田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1		161
79	文久 1	1861			4	19	馬屋普請二付請取済	入来氏		横半帳	1		139
79	1						覚			切紙	1	79の帳簿に括られている	139 1
80	文久 1	1861	酉		7	26	東海道継人足帳	薩州 入来伊右衛門		横半帳	1		167
81	文久 1	1861	酉		7	26	東海道旅籠帳	薩州 入来伊右衛門, 黒田直五郎		横半帳	1		169

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
82		文久 1	1861	酉		7		伊勢路東海道継人馬帳	薩州 宮原良右衛門, 入来伊右衛門, 加藤孫七 他1名		横半帳	1		168		
83	1	文久 1	1861	酉		8	17	九州路継人馬帳	宮口(原) 良右衛門, 入来伊右衛門 他2名		横半帳	1		170	1	
83	2	文久 1	1861	酉		8	17	九州路継人足帳	薩州 入来伊右衛門		横半帳	1		170	2	
84		文久 1	1861			8	23	出水米之津方 向田迄 継人馬帳	宮原良右衛門, 入来伊右衛門, 加藤孫七他1名		横半帳	1		171	1	
85	1	文久 1	1861	酉				田畠取納帳	入□□ (来カ)		横帳	1	表紙下部欠損	162	1	
85	2	文久 2	1862	戌				田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1		162	2	
85	3	文久 3	1863	亥				田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1		162	3	
86		文久 3	1863	亥		12	吉	利分取納帳	入来伊右衛門		横帳	1		190		
86	1					3		(ノて202貫862文, 加藤弥七殿借用につき覚)			切紙	1	86の横帳に括りつけられている	190	1	
87		文久 3	1863	亥		8	9	入来伊右衛門母不幸二付到来物留			横帳	1		210		
88		元治 1	1864	子				田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1		61		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号			
89		慶応 1	1865	丑		7		上京留守中 要用覚留	入来伊右衛門		横帳	1		211			
90		慶応 1	1865	丑		10	13	御留守中銀錢出入并作職留横折	児玉源五郎		横帳	1		191			
90	1							(断簡, 金銭書上)			切紙	1	90の横帳に括りつけられている	191	1		
91	1	慶応 1	1865	丑				丑秋田畑取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1		62	1		
91	2	1	慶応 2	1866	寅			田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1	91-2-1, 91-2-2は綴られている。付箋あり	62	2	1	
91	2	2	慶応 2	1866	寅			寅秋田畠取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	91-2-1, 91-2-2は綴られている	62	2	2	
91	2	2				5	17	覚 (4俵の払米内訳などにつき書状)	七端ヵ方夫主	入来伊右衛門	切紙	1	91-2-2の帳簿の袋綴部分の中にあり	62	2	2	1
91	2	2						(米粟収納につき覚)			切紙	1	91-2-2の帳簿の袋綴部分の中にあり	62	2	3	
91	3	1	慶応 3	1867				卯秋田畠取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	91-3-1, 91-3-2は綴られている。見出しあり	62	3	2	
91	3	2	慶応 3	1867	卯			田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1	91-3-1, 91-3-2は綴られている。見出しあり	62	3	1	
91	4	1	慶応 4	1868	辰			田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1	91-4-1, 91-4-2は綴られている	62	4	1	

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号			
91	4	1	1							(断簡, 養蚕関係書籍広告の一部)			切継紙	1	91-4-1に挟み込まれている	62	4	1	1
91	4	1	2							覚(元出(手)金, 買入代等につき)			切紙	1	91-4-1-1に挟み込まれている。「辰五月かり」とあり	62	4	1	2
91	4	2		慶応 4	1868					辰秋田畑取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	91-4-1, 91-4-2は綴られている。種目別の見出しあり	62	4	2	
92				慶応 4	1868	辰		8	16	出兵二付銭別留帳	入来伊右衛門		横帳	1		141			
93				慶応 4	1868	辰		8	16	御留守中金銭出入横折			横帳	3		195			
93	1									覚(米代等金銭出入につき)			切紙	1	93の横帳に括られている	195	1		
93	2									覚(米代等覚)			切紙	1	93の横帳に括られている	195	2		
94				慶応 4	1868	辰		8		留守中米, 銭貸附帳			横帳	1		194			
95						子		3	18	伊勢道中帳	入来傳太郎		横半帳	1		164			
96				慶応 2	1866	卯		12		貸付銭利取調帳	入来伊右衛門		横帳	1	押紙あり	193			
96	1					辰		3	晦	覚(借用の米銭弁済につき)	□(彦カ)太夫	伊右衛門様	切紙	1	96の横帳に挟み込まれている	193	1		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
97				子		3		御伊勢参宮紀行	定保		綴帳	1		108		
98		慶応 2	1866	丙寅		1		御留守金銭出入并作職雑記	預り 児玉源五郎		横帳	2		192		
98	1							覚（金銭出入につき）			切紙	1	98の横帳に括られている	192	1	
99						9	21	（伊勢道中帳）			横帳	1		222		
100								稻留流三巻書聞書			縦帳	1	「極秘書, 他見作言有間敷也」とあり	87		
101	1							日置流弓目録 卷之三			縦帳	1	旧整理で一括になっていた。表紙紛失か	88	1	
101	2							日置流弓聞書			縦帳	1	旧整理で一括になっていた。表紙紛失か	88	2	
102								高麗陣日記 口二冊 上巻	牛木野郷士 吉武氏 良次 [㊦] 花押		縦帳	1	序に「元禄壬午洛東隠士大田信一書」。「上下式冊 伊集院郷士帖佐氏より本書借用写のものなり」とあり	89		
103								服忌令	主 入来氏		縦帳	1	末尾に「入来伊右衛門」	100		
104								家訓条目			縦帳	1	末尾に水戸家系図が付されている	103		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
105								古実書			縦帳	1	絵図あり。「北七座の盃の事」とあり	121		
106								御成次第古実			縦帳	1	虫損多し。「伊勢備中守貞藤常の九十六ヶ条」とあり	122		
107								移居記			仮綴	1		125		
108								酌并立ふるまい 雑之一			縦帳	1		130		
109								貞久記			縦帳	1		132		
110								貞奥御返答			縦帳	1	絵図あり。「元亀参年七月四日伊勢三郎貞奥判」とあり	133		
111								貞順色々記	伊勢太郎左衛門尉貞順		縦帳	1	絵図あり	135		
112								御留守中金銭貸附横折	児玉源五郎		横帳	2		196		
112	1					1	26	覚（金銭出入関係）	町々戸口（丞カ）	入来伊右衛門様上	切紙	1	112の横帳に括られている	196	1	
113				寅		3		京都諸中取拂帳	入来伝右衛門		横半帳	1	付箋あり、寅3月～10月29日迄	92		
114						4		御書取（廻状抜書カ）			横帳	1		223		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
115						5	5	道中記（5月5日～6月11日, 上洛并帰路の日記カ）			縦帳	1	上洛并帰路の日記カ	90		
116						6	17	（日記）			縦帳	1		113		
117								（紀伊・大和・伊勢遊覧日記）			縦帳	1		107		
117	1							小倉道中駅路			切紙	1	117の縦帳の袋綴部分に挟まれていた	107	1	
117	2							（道中に詠んだ短歌数首）			切紙	1	117の縦帳の袋綴部分に挟まれていた。和歌中に「亀石」の地名あり	107	2	
118								庄内軍記			綴帳	1		109		
119								（発句集）			横半帳	1		178		
120								（米穀貸借控帳）			横帳	1		202		
120	1							（金銭覚断簡）			切紙	1	120の横帳に括られている	202	1	
121								（米粟取納帳）			横帳	1		224		
122								（米粟取納帳）			横帳	1		225		

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号			
123										(米粟取納帳)			横帳	1	表紙なし。綴紐部分に竹の補強あり(補強の一部は破損)	226			
124				明治 1	1868	辰		11		知行名寄(上名村・下名村・荒川村の田畑ごとの作人高等控)	入来助次郎		縦帳	1		6			
125	1			明治 4	1871	未		2	晦日	錢借貸附帳	入来伊右衛門		横帳	1	125-1と125-2の二つの横帳が綴られている	198	1		
125	1	1				亥	旧	3	5	覚(經節3匣,代金10貫文につき)	羽嶋浦之庄助	入来伊右衛門様	縦紙	1	125-1の帳簿に挟まれている。裏に「この表,取カ代相払分□千百四十貫文使江渡」	198	1	3	
125	1	2						10	1	(金銭借用願につき書状)	□川口左衛門	入来伊右衛門様	縦紙	1	125-1の帳簿に挟み込まれている	198	1	4	
125	1	3								覚(金銭関係につき)			切紙	1	125-1の帳簿の綴紐にとじられている	198	1	1	
125	1	4								覚(金銭関係につき)	加藤半左衛門	入来伊右衛門様	切紙	1	125-1の帳簿の綴紐にとじられている	198	1	2	
125	1	5								覚(金銭算用につき)			切紙	1	125-1の帳簿に挟み込まれている	198	1	5	
125	2									下人金仕明賃金預金留并貸付留帳	預り主 入来伊右衛門		横帳	1	125-1と125-2の二つの横帳が綴られている	198	2		
126	1	1		明治 2	1869	巳				田畠取調帳	入来伊右衛門		横帳	1	126-1-1と126-1-2は綴じられている。付箋あり	63	1	1	

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号			
126	1	2	明治 2	1869					巳秋田畠取調庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	126-1-1と126-1-2は綴じられている。見出あり	63	1	2	
126	2	1	明治 3	1870	午				田畠取納帳	入来伊右衛門, 同助次郎		横帳	1	126-2-1と126-2-2は綴じられている。付箋あり	63	2	1	
126	2	2	明治 3	1870	午				午秋田畠取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	126-2-1と126-2-2は綴じられている。見出しあり	63	2	2	
126	2	2					3	24	(鯉水揚げの件等につき書状)	羽嶋浦 庄助	入来伊右衛門	切紙	1	126-2-2の帳簿の袋綴じ部分中にあり	63	2	2	2
126	2	2			未		4	21	(粟2俵借用依頼につき書状)	六郎兵衛	伊右衛門様	切紙	1	126-2-2の帳簿の袋綴じ部分中にあり	63	2	2	1
126	3	1	明治 4	1871	未				田畠取納帳	入来伊右衛門, 同助次郎		横帳	1	付箋あり, 126-3-1と126-3-2は綴じられている。見出しあり	63	3	1	
126	3	1					8	1	(納分8貫600文につき覚)	入来伊右衛門, 同助次郎		切紙	1	126-3-1に綴じ紐に括りつけられている	63	3	1	1
126	3	2	明治 4	1871					未年田畠取納庭帳	入来伊右衛門, 助次郎		横帳	1	126-3-1と綴じられている。見出しあり	63	3	2	
126	3	2			申		6	10	(真米4俵, 代金支払いにつき覚)	宮持之大右衛門	入来茂	切紙	1	126-3-2の帳簿の綴じ紐に括りつけられている	63	3	2	2
126	3	2							乍恐口上覚 (都合30俵借用につき)	浜浦之 次郎右衛門	入来伊右衛門様	切紙	1	126-3-2の帳簿の綴じ紐に括られている	63	3	2	1
126	3	2							覚 (真米1駄下行願いにつき)	浜浦之 次郎右衛門	入来伊右衛門	切紙	1	126-3-2の帳簿の袋綴じ部分中に入っている	63	3	2	3

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
126	4	1	明治 5	1872	申				田島取納帳	入来伊右衛門, 同助次郎		横帳	1	見出しあり	63	4	1
126	4	2	明治 5	1872					申秋取納米金庭帳	入来伊右衛門		横帳	1		63	4	2
127			明治 3	1870	午		2	吉	隠居普請諸雑用留	入来伊右衛門		横帳	1		212		
128			明治10	1877	丑	旧	12		銭貨借利取納帳	入来伊右衛門		横帳	1		215		
128	1								記 (利分等差引168貫164文につき)			切紙	1	128の横帳に括りつけられている。「土族分・下意町カ・浦町」の付箋あり	215	1	
129	1		明治 3	1870	午		10		人別改帳写 (入来伊右衛門他19人, 入来助次郎他9人年齢等書上)			仮綴	1		8	1	
129	2		明治 5	1872	申		8		戸数人員検査帳写 (入来伊右衛門他50名年齢等書上)	入来定制		仮綴	1		8	2	
130			明治 3	1870	午		12	吉日改	貸附銭元利取納丸金帳	入来伊右衛門		横帳	1		197		
131			明治 5	1872	申		2	28	はる婚礼二付到来物留帳			横帳	1		213		
132	1	1	明治 6	1873	酉				田畑取納帳	入来伊右衛門		横帳	1	見出しあり	64	1	1
132	1	2	明治 6	1873	酉				酉秋田島取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	見出しあり	64	1	2

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号			
132	2	1		明治 7	1874	戌				田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1	132-2-1と132-2-2は綴られている	64	6	1	
132	2	2		明治 7	1874	戌				戌秋田畠取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	132-2-1と132-2-2は綴られている	64	6	2	
132	2	2	1			戌		11	14	覚（代米8斗等につき）	浜浦之藤右衛門	入来様	切紙	1	132-2-2に括られている	64	6	2	1
132	3			明治 8	1875	乙				亥秋田畠取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	見出しあり。付箋あり	64	4		
132	4	1		明治 8	1875	亥				（金銭算用につき覚）	入来伊右衛門	東カ玄カ篤殿	切紙	1	虫損あり。132-5に関連したもののか	64	5	1	
132	5	1				未		5	19	以上（金銭算用につき覚）		玄カ篤殿	切紙	1	虫損あり、132-5に関連したもののか	64	5	2	
132	5	1		明治 9	1876	丙子				田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1	見出しあり	64	3	1	
132	5	2		明治 9	1876	丙子				丙子秋取納米粟庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	132-5-1の横帳の後に綴じられている。見出しあり	64	3	2	
132	5	3		明治 9	1876	子				記（俵代金差引きにつき覚）			切継紙	1	132-5-1の横帳の綴紐に括られている	64	3	3	
132	5	4								（高粃1石5斗、納金35貫7文につき覚）			切紙	1	132-5-1の横帳の綴紐に括られている	64	3	4	
132	6	1		明治10	1877	丑				田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1	132-6-1～3は綴じられている。見出しあり。ただしかなり破損している	64	2	1	

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号			
132	6	2		明治10	1877	丑				丑秋田畠取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	132-6-1~3は綴じられている。	64	2	3	
132	6	3								(塩浜の上納につき覚)			切紙	1	132-6-1~3は綴じられている。 表に「金四十銭 橋之口之庄兵衛」、裏に「三人割一預米」	64	2	2	
133				明治 7	1874			旧	12	貸附銭利取納帳	入来伊右衛門		横帳	1					
133	1							旧	10	5 記 (金銭受取りにつき覚)	岩下平田	入来伊右衛門	切紙	1	133の横帳に挟み込まれている	199	1		
134				明治10	1877	丑	旧	12		出入覚帳			横帳	1					
135	1	1		明治11	1878	寅			10	4 明治十一年 寅秋 田畠取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	135-1-1, 135-1-2は綴じられている。付箋あり	71	1	2	
135	1	2		明治11	1878	寅			12	19 明治十一年 寅秋 田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1	135-1-1, 135-1-2は綴じられている。見出あり	71	1	1	
135	2	1		明治12	1879				9	26 明治十二年 卯秋 田畠取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	135-2-1と135-2-2は綴じられている。付箋あり	71	2	2	
135	2	2		明治12	1879	卯				明治十二年 卯秋 田畠取納帳	入来伊右衛門		横帳	1	135-2-1と135-2-2は綴じられている。付箋あり	71	2	1	
135	2	2	1						8	29 記 (納金内入覚)	入来伊右衛門		切紙	1	135-2-2に括り付けられている	71	2	1	1

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号			
135	3	1		明治13	1880	辰		10	3	明治十三年 辰秋 田畠取納庭帳	入来伊右衛門		横帳	1	135-3-1と135-3-2は綴られている。紙背に「嘉永五年四月宗門手札御改ニ付諸願帳 串木野 浜浦嶋平浦」	71	3	2	
135	3	2		明治13	1880	辰				明治十三年 辰 田畠取納帳	入来定穀		横帳	1	付箋あり	71	3	1	
136	1			明治12	1879	卯		2		馬屋普請取払帳			横帳	1	紙背に文書あり	142	1		
136	1	1								覚（唐草代他597貫400文につき）			切継紙	1	136-1の横帳の綴紐に括られている	142	1	1	
136	2									（汁桶等代金覚）			折紙	1	旧整理で一括にされていた	142	2		
136	3									（吸物わん等代金覚）			折紙	1	旧整理で一括にされていた	142	3		
137				明治13	1880	辰		3	26	濱城松山 番付 駄賦帳	主 定穀		縦帳	1	紙背文書あり	251			
138				明治13	1880			7		資金元帳（株金等資金の出入覚）			縦帳	1		5			
139				明治13	1880	辰		12		出納簿（定穀・助次郎分, 上名村・下名村・羽島村・荒川村貢納金, 学資金, その他, 金銭出入につき）	定穀		横半帳	1	罫紙用箋「諏訪下 入来」	4			
139	1			明治13	1880					上ノ昇氏ヨリ預金留并諸拂帳	定穀		横半帳	1	139の横半帳に貼付されている	4	1		
139	2			明治15	1882			12		木下金四郎ノ預金并ニ酬勞金 留帳	入来氏印		横半帳	1	139の横半帳に貼付されている	4	2		

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
139	3								記（宗右衛門・四郎・新助他3名, 麦植加勢により20銭借財にて棒引につき）			切紙	1	139の横半帳の綴紐に括られている	4	3	
140			明治13	1880	辰		12		金銭貸附利取納帳	入来定穀		横帳	1		200		
141	1		明治14	1881	巳		1		金穀貸附臺帳 第貳號（融通社株金, 明細一覧, 他明治14年より18年まで貸借関係控）	入来定穀		縦帳	1	141-1-1~141-1-2は本文書に挟み込まれている。17丁目の袋綴部分に文書1点あり。取出し不可	1	2	
141	1	1							（通帳の断簡）			切紙	1	141-1の縦帳に挟み込まれている	1	2	2
141	1	2					2		拂ノ調（十六年度勘定明細）			切紙	1	141-1の縦帳に挟み込まれている	1	2	1
141	2		明治15	1882					金穀貸附臺帳 第壹號（上名村・下名村・浜浦串木埜町島平・荒川村・羽島村, 各株主株金等控）	入来定穀		縦帳	1	寛政年間から明治初期14年までの台帳を明治15年に改めて写し終えたもの	1	1	
142			明治14	1881	巳		10	29	（入来家所有地字名別田畑屋敷地番付絵図）	定穀		縦帳	1	絵図13枚	95		
143			明治14	1881	巳		12		金子貸附帳 利取納	入来定穀		横帳	1		216		
144	1		明治14	1881	巳				所有地坪寄（所有地毎の面積, 地価, 地租額書付）	入来助次郎		縦帳	1	付箋に所有者名が書かれ貼付されている。朱書あり	2	1	

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
144	2			明治14	1881	巳				所有地坪寄（所有地毎の面積, 地価, 地租額書付, 上名村・下名村・羽島村）	入来定穀		縦帳	2	付箋に所有者名が書かれ。貼付されている。朱書あり。最後の丁の袋綴部分に線の引かれた紙が入っている。裏表紙の外側に鉛筆で計算式が書かれている。	2	2	
144	2	1								(畑地, 面積, 地租額等控)			単票	1	144-2の帳簿の綴紐に括られている。朱書あり	2	2	1
145	1			明治15	1882	午				貸附金利取納帳（明治16年未12月まで）	入来定穀		横帳	1		217	1	
145	2			明治17	1884	申		1		貸附金元利収納帳（明治17年申1月[旧明治16未12月]明治17年12月31日[旧明治17年11月15日]まで）	入来定穀		横帳	2		217	2	
145	2	1		明治16	1883	未		1		貸附金元利収納帳（明治17年第12月30日 明治17年11月15日まで）	入来定穀		横帳	1		217	2	1
145	2	2		明治17	1884	申		1		別途貸附金取納帳	定穀		横帳	1		217	2	2
146				明治16)	1883			1	1	□金カ□出力納日記（米粟代, 貸附金返金, 物品代等金銭出納）	定口（穀カ）		横半帳	1		24		
147	1	1		明治16	1883			9	8	明治十六年未十月改 十六年度米粟取納庭帳	入来定穀, 入来助次郎		横帳	1	147-1-1と147-1-2は綴じられている	73	1	2
147	1	2		明治16	1883	未		12	15	明治十六 未年 米粟取納帳	入来定穀, 入来助次郎		横帳	1	147-1-1と147-1-2は綴じられている。付箋あり	73	1	1

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
147	2	1	明治17	1884	甲申		9	3	明治十七年甲申秋 米粟収納庭帳	入来定穀		横帳	1	147-2-1~3は綴じられている。付箋あり	73	2	3
147	2	2	明治17	1884	甲申		12	23	明治十七年甲申秋 米粟収納帳	入来定穀		横帳	1	147-2-1~3は綴じられている。付箋あり	73	2	1
147	2	3	明治17	1884	甲申	旧	12	25	明治十七年甲申旧十二月改 別号米粟収納帳	入来定穀		横帳	1	147-2-1~3は綴じられている。付箋あり。表紙に「融通社江受取有之借入金抵当ヲ社員分配シ此帳ニ記載スルハ拙者方江受取り分也」	73	2	2
147	3	1	明治18	1885	乙酉	旧	9	28	明治十八年乙酉秋 米粟収納庭帳	入来定穀		横帳	1	147-2-1と147-3-2は綴じられている	73	3	2
147	3	2	明治18	1885	乙酉		12	11	明治十八年乙酉秋 米粟収納帳	入来定穀		横帳	1	147-2-1と147-3-2は綴じられている。付箋あり	73	3	1
148			明治17	1884			1	1	金出納日記（入部一米代金等, 出部一貸附金等）	主 定穀		横半帳	2	148-1横帳が折り畳まれて1丁目内側に挟み込まれている。148-2は本文書に括られている	25		
148	1								覚付留（金銭出入覚）			横帳	1	148の横半帳に挟み込まれている	25	1	
148	2								（金銭出入覚）			切紙	1	148の横半帳の綴紐に括られている	25	2	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
149		明治17	1884				1	布達目月カ留并二要件 反金表 (明治17年1月~7月)	定穀		横半帳	1	「日付之順序定マラズ注意スベシ」・「諸官省達ニ脱号アル故ハ要用ノ達ノミヲ記載スレバナリ」等とあり。罫紙用箋「全」	94		
150		明治17	1884				6	動産, 不動産 賣買臺帳 (明治十四年以降賣買分)	十一代 定穀		縦帳	1		14		
151		明治18	1885				1	1 金出納日記 (米粟代, 貸附入金等)	十一代 定穀		横半帳	1		26		
152		明治18	1885	乙酉			1	貸附金収納帳	入来定穀		帳面類	1		218		
153	1	明治18	1885				7	1 諸雇人星留 (大工・木挽き・左官・石切等賃金支払いにつき)	定穀		綴帳	1	153-1と153-2は綴られている	49	1	
153	2							冠岳・二俣川土手普請諸入具留 (杭・大縄等入具代金等につき)			綴帳	1		49	2	
154		明治19	1896	丙戌			1	1 金出納日記 (米粟代入金, 貸附金等)	十一代 定穀		横半帳	1		27		
155		明治19	1886	丙戌			1	賃金臺帳 第三號 (公債証書, 銀行・驛通局貯金貸金及び相対貸)	十一代 定穀		縦帳	1	朱書多数あり	7		
155	1	明治19)	1886				12	31 丙第二号 保管証 (公債証書購入金940円97銭5厘保管証控)		伊右衛門殿	単票	1	155の縦帳に挟み込まれている。「郵便為替願書」	7	1	
155	2							(整理公債証書貸金控カ)			仮綴	1	内容、形式とも155の臺帳を補足するものと思われる。罫紙用箋「諏訪下 入来氏用紙」	7	2	

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
156	1			明治19	1886	丙戌		1		貸金収納帳 第壹号	十一代定穀		横帳	1	「他郷」の頁に「入来院半兵衛」とあり	219	1	
156	2			明治19	1886	丙戌		1		貸金収納帳 第貳号	十一代定穀		横帳	1		219	2	
156	3			明治19	1886	丙戌		1		貸金収納帳 第参号	十一代定穀		横帳	1		219	3	
157	1	1		明治19	1886	丙戌		9	28	明治十九年丙戌秋 米粟収納庭帳	入来定穀		横帳	1	157-1と157-1-2は綴じられている	74	1	2
157	1	2		明治19	1886	丙戌		10	13	明治十九年丙戌秋 米粟収納帳	入来定穀		横帳	1	157-1と157-1-2は綴じられている。付箋あり	74	1	1
157	2	1		明治20	1887	丁亥		9	29	明治二十年丁亥秋 米粟取納庭帳	入来定穀		横帳	1	157-2-1と157-2-2は綴じられている	74	2	2
157	2	2		明治20	1887	丁亥		11	13	明治二十年丁亥秋 米粟収納帳	入来定穀		横帳	1	157-2-1と157-2-2は綴じられている。付箋あり	74	2	1
157	3	1		明治21	1888	戊子	旧	10	2	明治二十一年戊子秋 米粟取納庭帳	十一代 入来定穀		横帳	1	153-3-1と153-3-2は綴じられている。切れた紙縫りあり。付箋あり	74	4	
157	3	2		明治21	1888	戊子	旧	10	2	米粟取納庭帳			横帳	1	153-3-1と153-3-2は綴じられている。縫りが解け切れている。封筒中にその縫りあり。	74	4	1
157	3	2	1							(糸品位別価格表)			切紙	1	157-3-2の横帳に括られている	74	4	2

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
157	4			明治21	1888	戊子		11	14	明治二十一年戊子秋 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	付箋あり	74	3	
157	5	1		明治21	1888	子		12	29	明治二十一年子十一月改 旧作人滞納米粟取納帳	十一代 定穀		横帳	1		74	5	1
157	5	1	1							(下敷カ)			切紙	1	157-5-1の横帳に挟み込まれている。裏側に「四千百八拾八番 字轟木」・「一山林貳町壹反六畝廿歩 地價金拾九円立拾錢 地租金四拾八錢八厘」・「券状持主 入来定穀 外二五名 加藤」とあり	74	5	2
158				明治21	1888					穀物 現品/代金 出納帳 (米粟代, 諸税等)	定穀		横半帳	1		51		
159				明治22	1889			1	1	金出納帳 (米粟代, 貸金等)	十一代 定穀		横半帳	1		30		
160	1			明治22	1889			1		雇人日数・給金留帳 (職人・仕明人等雇人出勤及び給金控)	十一代 定穀		縦帳	4	日付は新暦で示すと明記されている。罫紙用箋「諏訪下 入来」	3	1	
160	1	1						4	16	(拂金控)			単票	1	160-1の縦帳に挟み込まれている	3	1	1
160	1	2						7	19	(勘右衛門分, 拂金控カ)			単票	1	160-1の縦帳に挟み込まれている	3	1	3

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
160	1	3								大日本郵便汽船客荷運賃船名發着一覧表	横濱本町四丁目五十九番地 森屋善三郎, 東京京橋区三拾軒堀三丁目一番地 森屋定次郎		単票	1	160-1の縦帳に挟み込まれている。裏面に朱書で「大工。左官」等と何らかの数字が記されている	3	1	2
160	2		明治29	1896						雇人星帳 (石工・大工等勤務表, 賃金表)	定穀印		縦帳	2	作成者印「長野縣小諸郡長瀬村蠶卵原紙改良會社之印章」。「◎+ね」印あり。罫紙用箋「串木野 諏訪下 入来 用紙」	3	2	
160	2	1	明治28					10	23	(大工・人夫・魚・炭・地代等金錢佛 月別表)			単票	1	「起工 明治廿八年十月廿三日 旧閏九月六日」とあり	3	2	1
160	3		明治31	1898						雇人星帳 (石工・大工等勤務表, 賃金表)	定穀		縦帳	1	罫紙用箋「串木野 諏訪下 入来 用紙」	3	3	
160	4		明治41	1908						雇人星帳 (石工・大工等勤務表, 賃金表)	定穀		縦帳	1	帳簿表紙に印5種類あり。「製造場所/鹿児島縣日置郡串木野村上名」・「明治卅九年検査合格之證・鹿児島縣/原種」・「鹿児島縣蠶病豫防吏員印」・「山本」・「□治四十年□□検査済」。罫紙用箋「串木野 諏訪下 入来 用紙」	3	4	

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
160	4	1					3	4	(3月4日～3月21日備用日記)			単票	1	160-4の縦帳に挟み込まれている。罫紙用箋「諏訪下入来用紙」	3	4	2
160	4	2							(星取表, 給金支払覚等, 雇人関係一括)			単票	82	160-4の縦帳に挟み込まれている。罫紙用箋「串木野 諏訪下入来用紙」・「諏訪下入来用紙」・「入来用箋」	3	4	1
161			明治41	1908					現金出入日記 二ヶ年分(入金, 出金, 勘定等)	定穀		横半帳	1	「鹿児島縣蠶病吏員印」・「口鹿児島縣日置郡串木野村口」・「信濃国下高井郡日野村合資會社守真口蠶卵原紙製造之印」印あり	46		
162	1	1	明治36	1903			11	3	明治三拾六年 卯秋 米粟取納庭帳	定穀		横帳	1	162-1-1と162-1-2は綴じられている	68	1	2
162	1	2	明治36	1903			12	27	明治三拾六年 卯秋 米粟取納帳	定穀		横帳	1	162-1-1と162-1-2は綴じられている	68	1	1
162	2	1	明治37	1904					明治三十七年 甲辰 米粟取納帳	十一代 定穀		横帳	1	162-2-1と162-2-2は綴じられている。	68	2	1
162	2	2	明治37	1904					明治三十七年 甲辰 米粟取納庭帳	定穀		横帳	1	162-2-1と162-2-2は綴じられている。付箋あり	68	2	2
162	3	1	明治38	1905	乙巳		11		明治三十八年 乙巳 米粟取納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	162-3-1と162-3-2は綴じられている。付箋あり	68	3	2

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
162	3	2	明治38	1905	乙巳		12	18	明治三十八年 乙巳 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	162-3-1と162-3-2は綴じられている	68	3	1
162	4	1	明治39	1906	丙午		1	9	明治三十九年 丙午秋 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	162-4-1と162-4-2は綴じられている	68	4	1
162	4	2	明治39	1906	丙午		11	4	明治三十九年 丙午秋 米粟収納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	162-4-1と162-4-2は綴じられている	68	4	2
162	5	1	明治40	1907	丁未		11	8	明治四拾年 丁未秋 米粟収納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	162-5-1と162-5-2は綴じられている	68	5	2
162	5	2	明治40	1907	丁未		12	25	明治四拾年 丁未秋 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	162-5-1と162-5-2は綴じられている	68	5	1
162	6	1	明治41	1908	戊申		11	6	明治四十一年 戊申秋 米粟取納庭帳	入来		横帳	1	162-6-1と162-6-2は綴られている	68	6	2
162	6	2	明治41	1908	戊申		12	12	明治四十一年 戊申秋 米粟収納帳	入来定穀		横帳	1	162-6-1と162-6-2は綴られている。付箋あり	68	6	1
162	7		明治42	1909	戊申				明治四十二年 戊申秋 米粟収納略帳	入来		横帳	1	付箋あり	68	7	
163			明治19	1886					穀物現品代金出納帳（米代, 粟代, 穀種代, 諸税等）	十一代 定穀		横半帳	1	本帳に記載する際の諸規定を冒頭に掲げている	50		
164			明治21	1888	戊子		1	1	金出納帳（米粟代金, 貸金等）	十一代 定穀		横半帳	1		29		
165			明治22	1889			1		地券臺帳（冠嶽村・上名村・下名村・荒川村知行反別, 地價, 地租書上）	入来定穀		縦帳	1		16		

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
166	1	1		明治22	1889	丑		12	5	明治二十二年丑秋 米粟取納帳	十一代 定穀		横帳	1	166-1-1と166-1-2は綴じられている。	75	1	1
166	1	1	1	明治				6	22	(報告 返書)	坂嶋六左衛門	入来定穀様	切紙	1	166-1-1に挟み込まれている	75	1	1
166	1	2		明治22	1889					明治二十二年丑秋 米粟取納庭帳	十一代 入来定穀		横帳	1	166-1-1と166-1-2は綴じられている。付箋あり	75	1	2
166	1	2	1	明治)						(明治二十二年丑秋 米粟取納庭帳追加記録分カ)			切紙	1	166-1-2にはさみこまれている。朱筆(付箋カ)	75	1	2
166	2	1		明治23	1890	寅		11	14	明治二十三年 寅秋 米粟取納帳	十一代 定穀		横帳	1	166-2-1と166-2-2は綴じられている。見出あり	75	2	1
166	2	2		明治23	1890	寅				明治二十三年 寅秋 米粟取納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	166-2-1と166-2-2は綴じられている。無地の紙付属あり	75	2	2
167				明治23	1890				1	金出入當坐帳 第壹号 第貳号 第参号 (収入金, 支出金月別書上)	十一代 定穀		横半帳	1			31	
168				明治23	1890				1	貸金取納帳 前巻第二第三号	定穀		横帳	1	付箋あり		220	
169				明治23	1890					(桑園収支金, 地租, 雇人出欠等勘定帳)			綴帳	1			52	
170				明治24	1891				4	明治廿四年四月実地丈量			綴帳	1			137	
171										首尾掛留 (金銭出入につき)			横帳	1	「卯旧十二月廿九日」とあり		65	

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
171	1	1	明治24	1891		旧	12	22	明治二十四年 卯秋 米粟出納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	171-1-1と171-1-2は綴じられている	65	1	2
171	1	2	明治24	1891					明治二十四年 卯秋 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	171-1-1と171-1-2は綴じられている	65	1	1
171	2	1	明治25	1892					明治二十五年度 米粟取納帳	十一代 定穀		横帳	1	171-2-1と171-2-2は綴じられている	65	2	1
171	2	2	明治25	1892					明治二十五年度 辰秋 米粟出納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	171-2-1と171-2-2は綴じられている	65	2	2
171	3	1	明治26	1893		旧	11	20	明治二十六年度 巳秋 米粟取納庭帳 (旧11月~12月)	十一代 定穀		横帳	1	171-3-1と171-3-2は綴じられている	65	3	2
171	3	2	明治26	1893					明治二十六年度 巳秋 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	171-3-1と171-3-2は綴じられている	65	3	1
171	4	1	明治27	1894			11		明治二十七年度 午秋 米粟収納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	171-4-1と171-4-2は綴じられている	65	4	2
171	4	2	明治27	1894					明治二十七年度 午秋 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	171-4-1と171-4-2は綴じられている	65	4	1
171	5	1	明治28	1895	乙未				明治二十八年度 乙未秋 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	171-5-1と171-5-2は綴じられている	65	5	1
171	5	2	明治28	1895	乙未				明治二十八年度 乙未秋 米粟収納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	171-5-1と171-5-2は綴じられている	65	5	2

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
172		明治24	1891					小作米品質成績 第一回廿四年度 第二回三十一年度（農林會の審査における各作人の等級等）	定穀		縦帳	1	「地主入来定穀印」の名で作人軸屋萬太に一等賞授与の記事あり。罫紙用箋「串木野 諏訪下入来 用紙」	9		
173		明治24	1891					惣出入金留	十一代入来氏 金庫掛		横半帳	1		54		
174		明治25	1892					惣出入金留	金庫掛		横半帳	1		55		
174	1	明治25)	1892					記（2円86銭5厘, 支出につき覚）			切紙	1	174の横半帳の綴紐に括りつけられている	55	1	
175		明治26	1893					惣出入金留	金庫掛		横半帳	1		56		
175	1	明治25)	1892					八郎へ渡申候高（給料明細につき覚）			切紙	1	175の横半帳の綴紐に括りつけられている。朱書「廿五年四月十日」	56	1	
176		明治27	1894			1		金出入留（普通部・資金部・鑛業部等部門別）	定穀		横半帳	1		32		
177		明治27	1894			11	20	証（会費1円領収につき）	大日本織物協会印	入来定穀殿	単票	1		262		
178		明治28	1895			1		金出入留（資入・資出・蚕出・鑛入・鑛門等）	定穀		横半帳	1		33		
179		明治29	1896			1		金出入留（資金部・蚕業部・鑛業部等部門別）	十一代 定穀		横半帳	1	「鹿児島縣蚕絲業組合取締所検査之証 春蠶」印紙貼りつけ及び同検査の押印	34		

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
180				明治29	1896			7	16	(原野拂下願等綴)			綴	3		20		
180	1			明治29	1896			7	16	原野拂下願(日置郡原野16カ所合計1町6畝6歩,畑地開墾のため払下げにつき)	日置郡串木野村上名百拾七番戸 願人 入来定穀 同郡同村同名千三百式拾四番戸 保証人 宮之原重⑩,同郡同村同名千三百式拾四番戸同居 同上 宮之原亮介⑩	鹿児島縣知事子爵 加納久宣殿	仮綴	1	「鹿児島県日置郡串木野村役場の印章」印あり。原野地図を付す	20	1	
180	2			明治32	1899					(日置郡原野地,合計1町2反5畝4歩,畑地開墾の払下げにつき)	日置郡串木野村上名百拾七番戸 願人 入来定穀 同郡同村同名千三百式拾四番戸 保証人 宮之原重⑩,同郡同村同名千三百式拾四番戸同居 同上 宮之原亮介⑩	鹿児島 林務官 大村區署長 永田正吉殿	仮綴	1	原野地図を付す	20	2	
180	3			明治32	1899					原野拂下願(日置郡原野21カ所合計反別1町2反5畝4歩,畑地開墾のため払下げにつき)	日置郡串木野村上名百七拾七番戸 願人 入来定穀 同郷同村下名千三百式拾四番戸 保証人 宮之原重 同郡同村千三百式拾四番戸同居 保証人 宮之原亮介		仮綴	1	原野地図を付す	20	3	
181	1	1		明治29	1896	申				明治二十九年度 申秋 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	181-1-1と181-1-2は綴られている。付箋あり	66	1	1
181	1	2		明治29	1896	丙申				明治二十九年度 申秋 米粟取納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	181-1-1と181-1-2は綴られている	66	1	2
181	2	1		明治30	1897	酉				明治三十年度 酉秋 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	181-2-1と181-2-2は綴られている。付箋あり	66	2	1
181	2	2		明治30	1897	酉				明治三十年度 酉秋 米粟取納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	181-2-1と181-2-2は綴られている	66	2	2
182				明治29	1896					養蠶新編	山田節太郎稿		縦帳	1		84		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
183		明治30	1897			1	1	金出納帳（米粟代等）	十一代 定穀		横半帳	1		28		
184		明治30	1897			1	6	耐火煉化 通常煉化 製造設計書	伊藤必携		縦帳	1		85		
185		明治30	1897			1		金出入留（資金部・蚕業部・鑛業部等部門別）	十一代（定穀）印		横半帳	1	作成者印「製造人 鹿兒島縣日置郡串木野村入来定穀」	35		
185	1							（計算式等）			切紙	1	185の帳簿のあいだに挟み込まれている	35	1	
186		明治30	1897			8	27	森林払下願（薩摩国日置郡串木野村下名字新屋敷八千六拾九番官有地）	日置郡串木野村上名百七拾七番戸 願人 入来定穀印, 同郡同村同百式拾五番戸 保証人 有馬孝治印, 同郡同村同八拾五番戸 保証人 橋口彦二印	鹿兒島縣知事子爵 加納久宜殿	仮綴	2	同一のもの2点あり	238		
187	1	明治30	1897					荒川米収納帳（納人氏名・小作料等記入伝票綴）	定穀		綴帳	1	187-1~6は綴られている	53	5	
187	2	明治31	1898			12	17	下名米粟収納（納人氏名・小作料等記入伝票綴）	定穀		横半帳	1	187-1~6は綴られている	53	4	
187	3	明治31	1898	戌				米粟出納勘定帳（米・粟・米粟代納, 拂仮料等）	定穀		横半帳	1	187-1~6は綴られている	53	1	
187	4	明治31	1898					冠岳米粟取納帳（納人氏名, 小作料等記入伝票綴）	定穀		綴帳	1	187-1~6は綴られている	53	2	
187	5	明治31	1898					上名米粟収納帳（納人氏名, 小作料等記入伝票綴）	定穀		横半帳	1	187-1~6は綴られている	53	3	
187	6	明治31	1898					上名・下名 米粟収納帳（納人氏名, 小作料等記入伝票綴）			横半帳	1	187-1~6は綴られている	53	6	

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
188				明治31	1898			1		金出納帳（資金部・鑛業部・蚕業部等部門別）	定穀		横半帳	1	裏表紙に「鹿児島県 新照院 □□□ □之 □」の印あり	36		
189	1			明治36	1903			5	28	蠶飼の菜 完 岩手縣農會報臨時増刊	岩手縣農會 鈴木彦夫著 發行所 岩手縣盛岡市内丸縣廳構内 岩手縣農會		書籍	1		22	1	
189	2			明治38	1905			2		臨時報告 蠶事要報（甲）（桑及び蠶の科学的データ等）	東京蠶業講習所		書籍	1		22	2	
189	2	1		明治31	1898			12		養蠶摘	鹿児島県日置郡串木野村 入来蠶業部		単票	1	189-2の書籍に挟み込まれている	22	2	1
189	3			明治38	1905			3		臨時報告 蠶病豫防/方法	東京・京都 蠶業講習所		書籍	1		22	3	
190	1	1		明治32	1899	亥		11	10	明治三十二年 亥秋 米粟取納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	190-1-1と190-1-2は綴じられている	67	1	2
190	1	2		明治32	1899	亥		12	2	明治三十二年 亥秋 米粟取納帳	十一代 定穀		横帳	1	190-1-1と190-1-2は綴じられている。付箋あり	67	1	1
190	2	1		明治33	1900	子		1	7	明治三十三年 子秋 米粟取納帳	十一代 定穀		横帳	1	190-2-1と190-2-2は綴じられている。付箋あり	67	2	1
190	2	2		明治33	1900	子		10	23	明治三十三年 子秋 米粟取納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	190-2-1と190-2-2は綴じられている	67	2	2
190	3	1		明治34	1901	丑		11	7	明治三十四年 丑 米粟取納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	190-3-1と190-3-2は綴じられている	67	3	2
190	3	2		明治34	1901	丑		12	22	明治三十四年 丑秋 米粟取納帳	十一代 定穀		横帳	1	190-3-1と190-3-2は綴じられている	67	3	1

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
190	4	1	明治35	1902	寅		11	25	明治三拾五年 寅秋 米粟収納庭帳	十一代 定穀		横帳	1	190-4-1と190-4-2は綴じられている	67	4	2
190	4	2	明治35	1902	寅		12	22	明治三拾五年 寅秋 米粟収納帳	十一代 定穀		横帳	1	190-4-1と190-4-2は綴じられている。付箋あり	67	4	1
191			明治32	1899	己亥				金出納帳（資金部・鑛業部・蚕業部等部門別）	定穀		横半帳	1		37		
192			明治32	1899					春蚕西ヶ原青熟飼育日誌	入来蚕室 第四号 入来口文		縦帳	1		179		
193			明治33	1900			1	1	大日本織物協會々員人名録			単票	1		60		
194			明治33	1900			1		現金出納日記（資金部・鑛業部・蚕業部等部門別）	十一代 定穀		横半帳	1		38		
195			明治34	1901	辛丑		1		現金出納日記（資金部・鑛業部・蚕業部等部門別）	定穀		横半帳	1		39		
196			明治35	1902	壬寅				金出納日記（資金部・蚕業部・鑛業部等部門別）	十一代 定穀		横半帳	1		40		
197			明治36	1903			11	6	異動地丈量帳	入来氏		縦帳	1		244		
198			明治36	1903	癸卯				現金出入日記（入金, 出金, 一時取替金, 勘定等）	定穀		横半帳	1		41		
199			明治37	1904	甲辰		1		現金出入日記	蠶業部		横半帳	1		57		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
200		明治37	1904	甲辰				現金出入日記（入金, 出金, 一時取替金, 勘定等）	定穀		横半帳	1		42		
201		明治38	1905	乙巳				現金出入日記（入金, 出金, 一時取替金, 勘定等）	定穀		横半帳	1		43		
202		明治39)	1906			11		（各地所反別, 地價, 地租等台帳）			縦帳	1		19		
203		明治39	1906					現金出入日記（入金, 出金, 一時取替金, 勘定等）	定穀		横半帳	1	「長野縣小諸郡長瀬村蠶卵原紙改良合資會社章」印あり	44		
204		明治40	1907	丁未				現金出入日記（入金, 出金, 一時取替金, 勘定等）	定穀		横半帳	1		45		
205		明治40)	1907					四十年中米粟代石納			綴帳	1		136		
206		明治40	1907					仕込帳	日置郡串木野村上名百七十七番戸 酒類製造主 入来定穀		綴帳	1		176		
207		明治41	1908			9	12	（不要存置國有林野売却願等一括）			一括	3		256		
207	1	明治41	1908			9	12	不要存置國有林野賣拂願（面積1反歩, 金2円30銭 付 証明願, 地図）	日置郡串木野村大字上名一七七番戸 入来定穀㊟	鹿兒島大林區署長 山林技師 永田正吉殿	仮綴	1	朱印あり	256	2	
207	2	明治41	1908			9	12	不要存置國有林野賣拂願（面積3反歩3畝歩, 金6円10銭 付 証明願, 地図）	日置郡串木野村大字上名一七七番戸 入来定穀㊟	鹿兒島大林區署長 山林技師 永田正吉殿	仮綴	1	朱印あり	256	3	
207	3	明治42	1909			6	21	（封筒）	鹿兒島大林區署	日置郡串木野村上名 入来定穀殿	封筒	1	207-1~2は本封筒に入っていたか	256	1	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
208		明治43	1910			1		現金出入日記（入金, 出金, 一時取替金, 勘定等）	定穀		横半帳	1	「明治三十六年検査合格 [] 鹿 [] 原種」印あり。「安藤」印「是枝」印あり	47		
209	1	明治43	1910	庚戌		12	21	明治四十三年 庚戌 小作料収納帳	諏訪下 入来		横帳	1		69	1	
209	2	明治44	1911	癸亥		12	18	明治四十四年 癸亥 小作料収納帳	入来		横帳	1	赤ペン記入あり	69	2	1
209	2	明治)						(雑費支払覚カ)			切紙	1	広告の裏をメモ紙としている	69	2	2
210		明治44	1911			4	7	(林野図面下附方願出二依り謄写図面交付につき綴)	鹿児島大林区署印	串木野村大字上名 入来 定穀殿	綴	1	「明治四十四年五月廿日」に下名字の「入来重彦殿」宛と「明治四十三年十月」に大字上名の「中尾助右衛門殿」宛も綴られている	241		
211		明治44	1911			8		繭糸品評會審査内規	繭玉生編		綴帳	1	罫紙用箋「大阪府立農学校」	173		
212		明治44	1911					金出入帳（入金, 出金, 勘定等）	定穀		横半帳	1	「長野縣小諸郡長瀬村蠶卵原紙改良會社之章」・「紙量八匁三分/卵量二匁二分」印あり	48		
213		明治44	1911					(上名・下名人別収穫米, 地租金等書上, 明治44年~大正2年)			仮綴	1	3枚の料紙に分かれているが一連のものと思われる	253		
214		明治45	1912			1	15	荒地免租年期明届出之件（届出催促状）	串木野村役場印	入来定穀殿	単票	1		245		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
215		明治45	1912			1	18	(借用証書等一括)			一括	7		254		
215	1	明治45	1912			1	18	(米7斗5升借用につき)	借主 久山金左工門 [㊟] , 保証人 久山善次郎 [㊟]	諏訪下 入来様	縦紙	1	明治45年5月までに返済するとあり	254	1	
215	2	大正 2	1913			1	30	借用証 (金44円81銭借用につき)	借主 龍藺休太郎 [㊟] , 保証人 木下金四郎 [㊟]	入来定穀殿	縦紙	1		254	2	
215	3	大正 2	1913			2	4	預り証 (金21円20銭借用につき)	日置郡串木野村上名 垣田次郎 [㊟]	入来定穀殿	縦紙	1		254	3	
215	4	大正 3	1914			1	30	借用証書 (米6斗借用につき)	日置郡串木野村上名九千五百五十五番地 借用主 吉村田衣次郎 [㊟] , 同郡同村字上名九千五百五十五番地 保証人 吉村友一 [㊟]	入来定穀殿	単票	1		254	4	
215	5	大正 3	1914			5	7	借用証書 (米9斗6升借用につき)	日置郡串木野村下名九百五十六番戸 龍藺休太郎 [㊟]		単票	1	「大正三年六月拾五日」までに返済するとあり	254	5	
215	6	大正 3	1914			10	18	証書 (米2石2斗収納につき)	引受人 木下金四郎 [㊟]	入来定穀様	縦紙	1		254	6	
215	7	大正 3	1914			10	18	借用証書 (金15円22銭8厘借用につき)	日置郡串木野村上名 借用主 木下金四郎 [㊟]	入来定穀様	単票	1		254	7	
216		明治45	1912			1	19	(地価, 宅地税等調)			単票	1		247		
217		大正 1	1912					(国有地編入認可申請書等書類綴)			綴	29		236		
217	1	大正 1	1912			11	20	国有地編入認可申請書	日置郡串木野村上名百七拾七番地耕地整理施行認可申請文 入来定穀	鹿児島縣知事谷口留五郎殿	便箋	1	罫紙用箋「鹿児島縣耕地整理用紙」	236	1	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
217	2	大正 2	1913			5	17	(耕地整理施行ノ為メ國有道路堤塘河川ヲ整理地区に編入の件聞届)	鹿児島縣知事 谷口留五郎	日置郡串木野村上名百七拾番戸 耕地整理施行認可申請者 入来定穀	便箋	1		236	9	
217	3	大正 2	1913			5	21	(耕地整理施行ノ件の認可)	鹿児島縣知事 谷口留五郎	日置郡串木野村上名百二十七番戸 入来定穀	便箋	1		236	10	
217	4	大正 3	1914			3	5	申告書 (日置郡串木野村冠嶽二俣川耕地)	日置郡串木野村上名百二十七番戸 施行者 入来定穀	鹿児島縣知事 谷口留五郎	便箋	1		236	13	
217	5	大正 3	1914			3	10	工事着手届 (日置郡串木野村冠嶽二俣川耕地)	入来定穀	鹿児島縣知事 谷口留五郎	便箋	1		236	12	
217	6	大正 4	1914			4	21	地区并ニ設計書変更認可申請書	入来定穀	鹿児島縣知事 高岡直吉	便箋	1		236	16	
217	7	大正 4	1914			4		國有地追加編入認可申請書	耕地整理施行認可申請者 入来定穀	鹿児島縣知事 高岡直吉	便箋	1		236	21	
217	8	大正 4	1914			5	13	(申請地区並設計変更の件認可に付)		日置郡串木野村冠嶽耕地整理地区施行者 入来定穀	便箋	1	入来定穀には「別紙指令書及交付候也」として「大正四年五月廿四日」に届いている	236	23	
217	9	大正 4	1914			5	18	申告書	入来定穀	鹿児島縣知事 高岡直吉	便箋	1		236	26	
217	10	大正 4	1914			5	19	工事完了届	入来定穀	鹿児島縣知事 高岡直吉	便箋	1		236	24	
217	11	大正 4	1914			5	19	工事完了届	入来定穀	鹿児島縣知事 高岡直吉	便箋	1		236	25	

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
217	12		大正 4	1914			5	11	(耕地整理施行ノ為メ國有道路溝渠堤塘ヲ整理地区ニ追加編入ノ件聞届ケに付)	鹿児島縣知事 高岡直吉	耕地整理施行認可申請者 入来定穀	便箋	1	入来定穀に「別紙指令書及交付書候也」と知らされたのは「大正四年五月十八日」のこと	236	15	
217	13		大正 4	1914			7	23	(耕地整理法第三十條ニ依子認可につき)	鹿児島縣知事 高岡直吉	入来定穀	便箋	1		236	27	
217	14		大正 4	1914			9	25	(耕地整理地区の面積再調査につき通達)	鹿児島稅務署	串木野村役場御中	便箋	1		236	28	
217	15		大正 4	1915			4	16	國有地追加編入認可申請書	入来定穀	鹿児島縣知事 高岡直吉 殿	便箋	1	「日置郡串木野村冠嶽二俣川耕地整理施行地區國有地追加編入圖並地区界誤謬訂正圖」とあり	236	14	
217	16		大正)8				6	12	(土地登記の手續きにつき)	鹿児島県庁内 野崎政隆	日向本町串木野村 有馬 孝事治	葉書	1		236	8	
217	18								河変更工事仕様書			便箋	1		236	2	
217	19								堤塘工事仕様書			便箋	1		236	3	
217	20								水落工事仕様内譯書			便箋	1		236	4	
217	21								篩堰仕替工事仕様内譯書			便箋	1		236	5	
217	22								耕地整理施行認可申請書	日置郡串木野村上名百七 拾七番戸 申請者 入来 定穀	鹿児島縣知事谷口留五郎 殿	便箋	1		236	6	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
217	23							設計書 鹿兒島縣日置郡串木野村大字冠嶽耕地整理地区			便箋	1		236	7	
217	24							工事着手届（下書き）	入来定穀	鹿兒島縣知事署名 殿	便箋	1	罫紙用箋「入来用箋」	236	11	
217	25							道路工事変更仕様書			便箋	1		236	17	
217	26							溝渠工事変更仕様書			便箋	1		236	18	
217	27							堤塘工事変更仕様書			便箋	1		236	19	
217	28							畦畔設計工事変更仕様書			便箋	1		236	20	
217	29							地盤切場工事変更仕様書			便箋	1		236	22	
218		大正 1	1912			11	20	(国有地編入認可申請書等書類綴)			綴	4		237		
218	1	大正 1	1912			11	20	国有地追加編入認可申請書	(入来定穀)	鹿兒島縣知事 谷口留五郎殿	綴	1	罫紙用箋「鹿兒島縣耕地整理用紙」	237	1	
218	2							(整理施行地ノ総面積及地価)			便箋	1		237	2	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
218	3							(整理施行地ノ筆数面積並地価ノ地同及等位別合計表)			便箋	1		237	3	
218	4							(整理施行地内土地各筆細別並評定価額表)			便箋	1		237	4	
219		大正 1	1912			11	21	字図訂正申請 (日置郡串木野村下名字八蔵迫1万5960番号同番1イ号)	日置郡串木野村上名一七七番戸 一五九六〇番イ号所有者 入来定穀, 同郡同村下名 同番ノ口号所有者 山下喜兵衛	鹿児島税務署長 藤木定致殿	仮綴	1		239		
220		大正 1	1912			11	21	土地分筆申告 (日置郡串木野村下名, 地形図添付)	日置郡串木野村上名一七七番戸 入来	鹿児島税務署長 税務官 藤木定致殿	仮綴	1		242		
221	1	大正 1	1912	子		12	16	大正元年度 子秋 田畑宅地小作料収納帳	定穀		横帳	1		70	1	
221	2	大正 2	1913	丑		12	8	大正二年度 丑秋 小作地料収納帳	定穀		横帳	1	紙縫り1本 (「束一ノ四」)	70	2	
221	3	大正 3	1914			1	26	大正三年度 小作地料収納帳	定穀		横帳	1		70	3	
222		大正 3	1914			2	28	二俣川耕地整理費受払計算書 (大正3年2月28日~同年12月28日)			仮綴	1	罫紙用箋「串木野 諏訪下入来用紙」	227		
223		大正 3	1914			2	28	(二俣川耕地整理関係書類一括)			綴	6		231		
223	1	大正 3	1914			2	28	大正三年二月二八日起工冠嶽二俣川耕地整理人夫調			仮綴	1	罫紙用箋「串木野 諏訪下 入来用紙」	231	6	
223	2	大正 4	1915			4	16	国有地追加編入認可申請書	日置郡串木野村上名一七七番戸 耕地整理施行認可申請者 入来定穀	鹿児島県知事 高岡直吉殿	仮綴	1	罫紙用箋「鹿児島県耕地整理用紙」	231	4	

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
223	3		大正 4	1915			4		国有地追加編入認可申請書	日置郡串木野村上名一七 七番戸 耕地整理施行認 可申請者 入来定穀	鹿児島県知事 高岡直吉 殿	単票	1	罫紙用箋「入来 用紙」	231	5	
223	4								日置郡串木野村冠嶽字定穀耕地整理施行地区 確定図（縮尺1200分の1）			切紙	1		231	1	
223	5								日置郡串木野村冠嶽字定穀耕地整理施行地区 確定図（縮尺1200分の1）			切紙	1		231	2	
223	6								日置郡串木野村冠嶽字定穀耕地整理施行地区 （縮尺1200分の1）			切紙	1		231	3	
224			大正 3	1914			3	16	領収証（登録税, 金10円領収につき）	高江村 高口 木元直衛 印	入来重彦殿	縦紙	1		260		
225			大正 3	1914			6	30	計算書（大正3年2月28日～6月20日 受ノ部, 支払ノ部につき）	二俣川耕地整理 高田		仮綴	1	朱書あり。罫紙 用箋「串木野 諏 訪下 入来 用 紙」	230		
226	1		大正 3)	1914			12		大正三年十二月分計算書（人夫賃金等代金）			単票	1		232	9	
226	2		大正 4	1915			6	24	工事完了届（地区控）	右施行者 入来定穀	鹿児島県知事 高岡直吉 殿	単票	1	罫紙用箋「鹿児 島縣耕地整理用 紙」	232	6	
226	3		大正 4	1915			7	24	（封筒）	鹿児島縣	日置郡串木野村冠嶽耕地 整理地区整騰施行者 入 来入来定穀殿	封筒	1		232	2	
226	4						6	28	六月一日到廿至 合計（人夫賃金等代金につ き）			単票	1	罫紙用箋「串木 野 諏訪下 入来 用紙」	232	8	
226	5								（封筒）	鹿児島縣日置郡串木野村 役場	入来定穀殿	封筒	1		232	1	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
226	6							(冠嶽, 二俣川等地積調)			単票	1		232	3	
226	7							(耕地整理関係メモ)			単票	1	罫紙用箋「串木野 諏訪下 入来用紙」	232	4	
226	8							土地登記簿閲覧申請 (下書き)	串木野村冠嶽耕地整理地区 整理施行者 入来定穀	川内区裁判 市来出張所 御中	単票	1		232	5	
226	9							五月中計算 (人夫賃金等代金につき)			単票	1	罫紙用箋「串木野 諏訪下 入来用紙」	232	7	
226	10							(申請書類一覧メモ)			単票	1	罫紙用箋「鹿児島県耕地整理用紙」	232	10	
227		大正 3	1914			12		二俣川田地植付反別大量野取			横帳	1		233		
228		大正 4	1915			1		貯蔵庫建築費留貯蔵蚕種及人名留	定穀		綴帳	1	罫紙用箋「串木野 諏訪下 入来用紙」	175		
229		大正 4	1915			2	5	(日置郡串木野村冠嶽二俣川耕地地図一括)			一括	5		235		
229	1	大正 4	1915			3	11	日置郡串木野村冠嶽二俣川耕地整理確定図 (縮尺1200分の1)			単票	1	彩色あり	235	1	
229	2	大正 4	1915			3	11	日置郡串木野村冠嶽二俣川耕地整理実測図			単票	1	彩色あり	235	2	
229	3	大正 4	1915			3	11	日置郡串木野村冠嶽施行地区見取図 (丈量ハ実測)			単票	1	彩色あり	235	5	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
229	4							日置郡串木野村冠嶽二俣川耕地整理施行地区設計書変更豫定圖（縮尺1200分の1）			単票	1	彩色あり	235	3	
229	5							日置郡串木野村冠嶽二俣川耕地整理地区豫定圖（縮尺1200分の1）			単票	1	彩色あり	235	4	
230		大正 4	1915			3	11	（実測計算表, 冠嶽地区面積計算表, 冠嶽地区外面積計算表）			単票	1		228		
231		大正 4	1915			7	29	國有地編入届	日置郡串木野村冠嶽耕地整理施行地区 施行者 入来定穀	鹿児島縣知事 高岡直吉 殿	仮綴	1	罫紙用箋「鹿児島縣耕地整理用紙」	234		
232		大正 5	1916			2		後/久保方人夫星取帳（屋地引及び家屋建築人夫大工等星取及び賃金控）			ノート	1	「綴方清書帳」をそのまま利用	58		
232	1	大正 5	1916			8	25	（金25円37銭, 建築関係勘定控）			単票	1	罫線用紙「臺灣嘉義廳下北港街東洋製糖株式會社 北港製糖所」。232の星取帳に挟まっている	58	1	
232	2	大正						（畷市・実・盛・二郎以上4名勘定控カ）			単票	1	232-11に同じ	58	2	
232	3							（白灰・フノリ・魚油・ワラ等勘定覚）			単票	1	「薩摩国鹿児島市。大阪屋本店」と書かれた包装紙の裏に書かれている。232の星取帳に挟まっている	58	3	
233		大正 5	1916			3		字山木ヶ平菅道払下立木売却報告	中尾八太郎 大藤平助	入来定穀殿 他5名	横帳	1		248		
234								（祝儀控帳等一括）			一括	4		265		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
234	1	大正 5	1916			4		(大正5年4月～12月 普請入用控)			単票	1	2枚一続き	265	3	
234	2	大正 5	1916			10	27	(大正5年10月27日～11月23日 石垣方普請入用控)			単票	1	罫紙用箋「入来用箋」	265	2	
234	3	大正 6	1917			1	15	(母上病気見舞につき書状)			単票	1	罫紙用箋「入来用箋」	265	4	
234	4							祝儀摺帳			単票	1	2枚一続き。罫紙用箋「入来用箋」	265	1	
235		大正 6	1917			4		春蚕配布我数	串木野村蚕業技手		綴帳	1	罫紙用箋「日置郡串木野村役場」	174		
236		昭和 5	1930			5	12	金銭出納簿(昭和5年5月12日～昭和8年12月30日)			綴帳	1		59		
237		昭和 6)	1931					昭和五年度収納帳(冠嶽ノ部・上名ノ部・下名ノ部・荒川ノ部他)	入来氏		綴帳	1		143		
238		昭和 7)	1932					昭和六年度収納帳(冠嶽之部・茶ヶ野之部・下名之部・上名ノ部・荒川ノ部・下名塩田宅地貸附納他)	入来		綴帳	1		144		
239		昭和 8	1933			1		昭和七年度収納帳(小作人別収納石高等控)	スワ下 入来氏		綴帳	1		23		
240		昭和10	1935			1		昭和九年度収納帳	スワ下 入来氏		綴帳	1	米のほか粟の石高もみられる	145		
241				己		2	29	(金子貸附帳)			横帳	1	表紙なし	221		

目録番号	年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号
242							(各地所反別, 元地價, 元地租, 修正地租台帳)			縦帳	1		18
242	1				3	8	(宅地境界図面書送付状)	串木野村役場 ^印	入来定穀殿	単票	1		18 2
242	2						(井手山等各地所, 区分, 面積, 地租等書上)			単票	1		18 1
242	3	明治					荒地免租年期願 (書成ひな形)		鹿児島 税務管理商長 何某殿	単票	1		18 3
242	4						(租税関係計算覚)			単票	1		18 4
242	5						(城・元宅・東川骨・鳥井原 3ヶ所面積租額等覚)			切紙	1		18 5
242	6						(字永田 地所部分図)			単票	1		18 6
243					4	13	(設計変更の件につき書類, 地図提出依頼願)	東市来村湯之元 比良平 左衛門方, 中間字次郎	串木野村塩田耕地整理組 合地区 事務所 杉原正 助様	仮綴	1	罫紙用箋「鹿児島 島縣」	229
244					7	22	記 (乾湿計, 代金7円80銭請求につき)	京都市二条通烏丸西入 日本寒暖計製作所 ^印	上田家 伊地知様	単票	1		261
245			癸酉		7		(帰縣願等綴)			綴	2		255
245	1		亥酉		7		口上覚 (教導團工兵生徒入来八四郎 父伊右 衛門かつ氣にて2週間 帰縣願いつき)	鹿児島縣士族 入来八四 郎, 親類 入来 公, 右司 長次郎兵衛		単票	1		255 1

目録番号			年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
245	2				酉		7		(入来伊右衛門, 内損症にて全快覚来なく払治療別条なきにつき)	金丸綱介 [㊞]		単票	1		255	2	
246									たまあられ (玉霰 本居宣長作の写本)			縦帳	1		11		
247									神道名目類聚鈔 (巻六雑部, 巻五祭祀部の写)			縦帳	1		12		
248									(大字冠岳・大字上名・大字下名・大字荒川, 増額改正小作米粟台帳)			縦帳	1	罫紙用箋「諏訪下 入来氏用箋」	17		
249									(朱書) 雑記 単語仮名津加ひ	入来氏		縦帳	1		83		
250									女小学読本			縦帳	1		86		
251									(上申書等例文書留帳)			縦帳	1		96		
252									(歌人壘年譜)			縦帳	1		112		
253	1								すすきの巻 (句集)	翠外		横半帳	1		115	1	
253	2				亥	旧			うつきの巻 (句集)	甘心庵 [㊞]		横半帳	1	印文「甘心庵翠外」	115	2	
253	3								浮藤鳥口口 (のまか) 記 (句集)	翠外		不明	1	作成者印253-2に同じ	115	3	

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
253	4							寒ノ巻（句集）	甘心庵翠外 ^印		横半帳	1	印文253-2に同じ	115	4	
253	5			亥				鶏頭尋公の巻（句集）	翠外 ^印		横半帳	1		115	5	
253	6							茂りの巻（句集）	翠外 ^印		綴帳	1	作成者印文は253-2に同じ	115	6	
253	7							暑の巻（句集）	翠外 ^印		綴帳	1	作成者印文は253-2に同じ	115	7	
253	8							大晦日の巻（句集）	翠外 ^印		綴帳	1	作成者印文は253-2に同じ	115	8	
253	9							蚊進の巻（句集）	翠外 ^印		綴帳	1	作成者印文は253-2に同じ	115	9	
254	1							嶋の巻（句集）	文橋 ^印		横半帳	1	印文「文橋」	116	1	
254	2							霰の巻（句集）	文橋 ^印		横半帳	1	印文「文橋」	116	2	
255								（字義覚）			横半帳	1		138		
256								諸品書留帳	入来内		横半帳	1		172	2	
257								増補以呂波雑韻 卷上			縦帳	1		177		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
258	1							官有地払下ヶ地反別地価調 (下名・上名・冠嶽地区)			縦紙	1		240	1	
258	2							(字上野仁田・井手山等, 連名反別地価調)			切紙	1		240	2	
259								(宅地地積図一括)			一括	7		243		
259	1							(宅地毎地籍図, 九千六百五番字山下)	(券状持主 嶽釜武右工門, 福菌与四右工門, 山下戈之助 他3名)		縦紙	1	字上椿平。2枚貼りあわせ。両面に記載あり	243	1	
259	2							(宅地毎地籍図, <input type="text"/> 七百九番)	(券状持主 福菌甚右工門, 奥田栄之進, 羽月新次郎 他2名)		縦紙	1	字下椿平。2枚貼りあわせ。両面に記載あり	243	2	
259	3							(宅地毎地籍図, 二万八百拾七番 字浜口)	(券状持主 久保吉之丞, 久保万右工門, 中菌金太郎 他3名)		縦紙	1	2枚貼りあわせ。両面に記載あり	243	3	
259	4							(二万七百三拾壹番 字仙兵衛島)	(券状持主 中島市之助, 長谷場純孝, 奥田栄之進 他1名)		縦紙	1	2枚貼りあわせ。両面に記載あり	243	4	
259	5							(宅地毎地積図, 貳万七百八拾番)	(券状持主 入来定穀, 山下戈之助, 中島仙右工門)		縦紙	1	2枚貼りあわせ。両面に記載あり	243	5	
259	6							(宅地毎地籍図 三千百八拾八番 宅地 字八房)	(券状持主 入来定穀, 仮田平助, 池之上仲左工門)		縦紙	1	2枚貼りあわせ。両面に記載あり	243	6	
259	7							(宅地毎地籍図, 三千百九拾貳番)	(券状持主 濱屋庄右工門, 濱屋三四郎, 長谷場純孝 他1名)		縦紙	1	2枚貼りあわせ。両面に記載あり	243	7	
260								(人別田畑, 面積地租等書付帳)			縦帳	1		246		

目録番号		年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号		
260	1							(人別田畑, 面積地租等書付覚)			単票	1	2枚あるがいずれも260の帳面の綴じ忘れあるいは続きか。罫紙用箋「串木野 諏訪下 入来 用紙」	246	1	
260	2							(人別田畑, 面積地租等書付覚)			単票	1	罫紙用箋「串木野 諏訪下 入来 用紙」	246	2	
261								(耕地図等土地関係メモ類一括)			一括	7		257		
261	1							(封筒)	東京下谷区仲御徒町三丁目五十級番地 日本蠶業株式会社	鹿児島県日置郡串木野村 入来定穀殿	封筒	1	田畑面積等メモあり	257	1	
261	2							(字平田前 地籍図)			切紙	1		257	2	
261	3							(字宇都良 地籍図)			切紙	1		257	3	
261	4							(地図)			切紙	1	「隈之城塚」とあり	257	4	
261	5							(地図)			切紙	1		257	5	
261	6							(芹りの, 東西界書付)			切紙	1		257	6	
261	7							(封筒)	東京下谷区仲御徒町三丁目五十級番地 日本蠶業株式会社	鹿児島県日置郡串木野村 入来定穀殿	封筒	1	田畑面積等メモあり	257	7	
262								(所得等計算書)			単票	1	罫紙用箋「串木野 諏訪下 入来 用紙」	258		

目録番号				年号	西暦	干支	閏	月	日	標題	作成	宛名	形態	数量	備考	整理番号			
263										(字別反別地価・地租等書付)			単票	1	郵便用箋「諏訪 下入来用紙」	259			
264										(農蚕関係書章立メモ)			縦紙	2		263			
265										(皿函柄見本綴)			仮綴	1		264			

解題 入来家文書

—史料の概要と特色—

はじめに

本史料群については、再整理当初から大きな疑問があった。すなわち、まず串木野が現代でも日本有数の遠洋マグロ漁業の基地と知られ、江戸時代にも漁業が主要な産業のひとつで、鹿児島藩領有数の漁港として賑わったとされるにもかかわらず、本史料群には漁業・水産関係の史料がほとんど残されていないこと、次いで、史料の貸借に関する手続き上のことではあるが、この一連の証書類はもとより、採訪に関するデータも残されていないという点である。しかし、現地調査などを通じて得られた入来家や本史料群の来歴をめぐる情報によって、この謎はある程度氷解した。その詳細については、別項の来歴をご覧ください、上記の主な理由は「入来家文書」という史料群が、1950年代初頭、水産庁の委託により財団法人時代の日本常民文化研究所が行った全国の漁村史料調査、いわゆる漁業制度資料収集事業によって収集されたものではないことに由来するようである。従って、これまでの再整理作業により、すでに目録が刊行されている他の史料群とは多少性格を異にするということだけは、ここで再度確認しておきたい。

今回の整理の結果、旧整理において総袋数 226、総点数 622 点を数えた史料が、挟み込み史料や断簡類の扱いなど、新たな整理基準による見直しにより、文書の総点数は 791 点となった。史料群としての特徴は、まず前記の通り、漁業・水産史料はほとんど見られないのに対して、近世から近代にかけての土地知行に関する「取納帳」などの横帳が多数を占めることがあげられる。また近世期に書写された伊勢流の故実書や句集などの文化・教養に属する史料のほか、明治期以降の金融・養蚕・鉱業など多岐にわたる経営や耕地整理に関する史料などが見られる。総じて見れば、近代史料の比率が多い印象を受けるが、その理由のひとつは、入来定穀なる人物の存在が大きいと思われる。これに関しては後述したい。

串木野郷上名村と入来家について

入来家のある上名村（かんみようむら）は、串木野郷の東部に位置する同郷では唯一、海に面しない村で、現在の串木野市上名・冠岳にあたる。上名村は近世以来の村落名である。串木野村は昭和 10 年（1935）串木野町となり、昭和 25 年（1950）串木野市、平成 17 年（2005）いちき串木野市へと変遷を辿っている。

江戸時代の鹿児島（薩摩）藩の支配関係は、「外城制（とじょうせい）」と「門割（かどわり）制度」という独自の制度を持っていたことが知られている。辞典類では「外城制」とは、同藩の地域行政制度で、中世末、戦国島津氏の領国内の各領主の本城が統治していた地域を基本とし、藩政期に行われた家臣団の所替えを通じて確定した地域行政単位のことである。また、「門割制度」とは、四、五軒の農家からなる門（かど）を単位として配当した田畑を割り替えることであると説明されている。

鹿児島藩の領域は 113 の外城に分けられ、ひとつの外城には地頭仮屋を中心に、郷土集落の麓、農民集落の在、漁師集落の浦、商人集落の野町など、居住区が身分ごとに区別されていた。上名村の属した串木野郷は、この外城のひとつで、天明六年（1786）に 1323 人、明治元年（1868）には 1593 人の郷土の人数が計上されている。郷土は、身分は武士と公認されながら、業

態は農山漁村民である一方で軍役を負担した者である。すなわち、郷士は村方に住んで、所持地の一部を知行地として支配し、家臣団の身分制のなかに位置づけられたものをいう。

郷の運営は、地頭のもとに、郷士年寄（天明3年まで「噺」（あつかい）と呼ばれる。「噺」は、その後、慶応元年～明治4年の間、復活）・組頭・横目の「所三役（郷三役）」といわれる郷士役による合議によって行われた。串木野郷では、郷士年寄は数人存在し、1名ずつ10日からひと月ごとに輪番で勤め、郷政を取り仕切っていた。郷士年寄と組頭は、長老株である格式の高い家から選ばれ、その家柄は大体決まっていた。それは、長（おさ）・入来・長谷場・宮之原・児玉の五家であり、これらの家は、五撰家とも言われていたようである。つまり、本史料群を保有していた入来家は、この五撰家の一家に当たるが、今日ではこれらの家々は親戚関係にあるところも多いという。

このように入来家は上名麓に居を構えた郷士の家であったが、この点に関しては、本史料群を見る限り、残存史料の制約により、その実態を知る材料に乏しい。だが、断片的であるにせよ、他の史料で補うことで明らかになる部分もある。例えば、『串木野郷士誌 増補改訂版』には、郷士年寄（噺）名を伝える「串木野由来記」が収録されているが、その寛政4年には「入来傳兵衛」の名が見える。また、年号を欠く「高帳」には、「郷士年寄 入来七郎右衛門」とある。このうち前者の人物については、本史料群においても天明から天保の初め頃までの史料に、そして後者についても、天明6年「午秋田方取納庭帳」（目録番号12）においてその名が見える。このように近世期の入来家は「郷士年寄」の家であったことが再確認できる。

さらに入来家は、串木野麓では上級士族で、石高は49石9斗9升5合6勺3才（「串木野士族明細控帳」）であり、浮免（鹿児島藩で郷士に給した田の一種。実体は武士が開墾し、自作自収する土地）も所有していたという。ちなみに、この地域最高の知行高を有した加藤家が50石ちょうど、次いで奥田家など数軒が49.9石であったということからも、入来家が上級士族であったことが窺い知れる。そして、家の所在地は、串木野城址に隣接して位置し、諏訪神社（現在は南方神社）の下に家があったことから「諏訪下（スワンシタ）の入来どん（イリッドン）」（諏訪下の入来殿）と言われていたという。このことは「明治四十三年 庚戌 小作料収納帳」（目録番号209-1）、明治45年「米7斗5升借用につき」（目録番号215-1）などに見える記載、あるいは「串木野 諏訪下 入来用紙」の銘がある罫紙用箋の使用（目録番号155-2ほか）など、いくつかの史料などからも確認できる。

また、本史料群に収める多くの帳簿に見える「十一代定穀」の記載を信ずるならば、入来家は定穀が活躍した明治中頃時点において相当古い家であったと推測できる。さらに史料によると、入来家では「定計」（目録番号7）、「定保」（目録番号97）、「定静」（目録番号30）、「定穀」（目録番号53-1-1ほか）と称する人物を輩出したことが知られる。このため再整理当初から、当家が入来院氏の祖とされる「定心」の「定」を通字として持つ家であり、このことから入来院氏の分家に当たるのではないかと推測されていた。そして、二度にわたる聞き取り調査において、現在の入来家は、入来院氏の分家であると言われていること、また、入来家では代々「重」を通字としてきたが、藩主である島津家で「重」を使っている時には、それを避け「定」を使っていたという情報を得た。だが残念ながら、本史料群からだけでは、こうした聞き取り内容の裏づけはもとより、そうした近世以前の家の実態についても、ほとんど復元は不可能である。

ところで、現当主である重光氏によれば、当家は入来院家からの分家であるだけでなく、島津家との婚姻関係を持っていたという。これについても本史料群は何も語ってくれない。だが、史料の存在をもって安易に根拠とすることは慎まなければならないが、本史料群中には島津家にまつわる史料がいくつか見られること、あるいは後述する武家故実に関する一連の写本類の存在なども、このことと関連するのかもしれない。

それでは次に、本史料群に収められている多彩な史料について、いくつかのトピックに分けて簡単に紹介したい。

取収関係

鹿児島県の土壌は酸性のシラス台地であることから、他所と作物事情が大きく異なるのが特徴である。そして、その性質を活かしたサツマイモ栽培などは、現代でもよく知られるところであろう。そして、この地では江戸時代から、サツマイモ以外にも赤米や粟といった特徴的な土壌に適した作物が栽培されており、年貢として納められていた。入来家のある上名周辺でも、それは例外ではなく、当家が、小作人により上納される赤米や粟などの取収等を行っていたことは、本史料群の中で多くの割合を占める「田畠取納帳」や「米粟取納帳」と冠された帳簿類から看取できる（「寅秋米雑穀取納庭帳」目録番号5ほか）。とりわけ上名村や下名村では粟の取高が特に多かったが、それは畠の上納、すなわち、粟で小作料が収められていたためであるという。そして、このことも「米粟」を標題に持つ帳簿類を通じてもある程度裏づけられるであろう。また、この種の帳簿は、明治期になると「～取納帳」、「～取納帳外」、「～取納庭帳」の三種で構成されている年が目立つようになる。これらの諸帳簿の構造や機能分析については今後の精査を俟ちたい。

なお、小作人が上納する時期が新暦の11月～1月、旧暦の12月30日、いわゆる大晦日が締め切りであったことから、その直前には、上納催促・貸金催促が頻繁に行われたという。そのためであろうか、しばしば帳簿に挟み込まれていたり、括りつけられていた貸借関係の証書類が見受けられる。

ところで、明治初期の鹿児島県において土地制度は藩政時代のもを継承していたが、明治6年の地租改正に伴い、物納が金納へと移行し、地主により政府に納められることとなった。一方で小作人は現物で小作米を納め、地主がこれを換金して、その中から金納の地租を支払うという方式となっていた。こうした実態から、明治以降も帳簿構造等の変化はあったにせよ、近世以来の「取収帳」の作成は継続され、本史料群で多数を占めることとなったのではなかろうか。

ちなみに、もはや現存しないが、かつて入来家には石蔵が2つあり、ここには収まらないくらいの米が収められていたという。また、2011年11月の訪問時、いちき串木野中央公民館には、明治20年頃に使用されていた升や定穀を当主とする家族写真などが展示されていた。こうした非文字資料もまた貴重な資料のひとつであり、文字資料との相互補完により当家や串木野の歴史をより豊かにするものであろう。

明治期の経営

既述のように、本史料群の特徴のひとつは明治期以降の経営に関する史料の割合が多いことにある。そこで以下では、主要な業種とそれに関連する史料、また、この時代に活躍した定穀の業績などを通じて、当家の明治期の経営について簡単にまとめておきたい。

①金融業など

明治18年頃、入来家は金融業や土地買取会社を創設・拡大したことをひとつの契機として事業の成功をみたといわれている。その実態は、おそらく本史料群に収められている経営帳簿をはじめとした多くの史料を精査することで、より明らかになると思われる。この時期、入来家がこうした業種を通じて飛躍を見た背景には、明治14年の暮れから始まった政府の紙

幣整理政策、いわゆる「松方デフレ」により、全国的に農村が疲弊し、小作地が増加したことに一因があり、鹿児島も例外でなかったことにあるように思われる。この頃に作成された「現金出納日記（入部一米代金等、出部一貸附金等）」（目録番号 148）や「貸金収納帳 第巻号」（目録番号 156-1）の類は、一経営者の実態だけでなく、こうした時代背景と関連づけると大変興味深い一群であろう。

②養蚕関係

入来家と養蚕については『串木野郷土誌』に詳しいが、もともと鹿児島では江戸時代に島津氏が産業を奨め、士族に対する事業として養蚕や茶の栽培が推奨されていたことから、士族は養蚕に熱心であったとされる。そして、串木野でも江戸時代後期から幕末にかけて、入来家に近い諏訪神社の鳥居前に手繰り製糸を行う施設などが置かれ、そこで作られた生糸は全て藩庁に納められていたという。その後、串木野の養蚕業は、明治の初めに一時衰退したものの、明治 19 年、有志により製糸場建設の計画が持ち上がり、その中の一人に定穀も含まれていた。それ以降の串木野の養蚕業は、定穀が主導し、普及に尽力したとされる。残存史料は、こうした事情を反映し、明治の中期以降のものが多く、蚕室の設置や養蚕と製糸の技術者養成、桑園の経営にいたるまで盛期の養蚕業経営の様子を知ることができる（「春蚕西ヶ原青熟飼育日誌」目録番号 192 など）。このように養蚕業関係の史料が散見するのも本史料群の特徴のひとつであり、その理由は定穀の上記のような活動にあるといえる。また、定穀が養蚕に尽力した一因には、定穀の二代前の伊兵衛の夫人による養蚕の実践と家中への訓諭があったことが大きいといわれていることも入来家と養蚕との関係を物語る上で、忘れてはならない事柄であろう。なお、現存する家屋も養蚕向けの造りを今なお留めているという。

③鉱業関係

串木野では、江戸初期に芹ヶ野金山が発見されると、それ以後、金銀の採掘が主要産業のひとつとなり繁栄した。この鉱山は、もともと島津家による経営で行われていたが、一時期衰退し、明治時代に串木野の鉱山が再注目されると、三井鉱山や日本鉱業などが採掘に携わったとされる。また、明治 30 年前後になると、個人の鉱業も盛んとなり、大変な賑わいを見せたという。こうしたことから、串木野においては個人鉱山で成功した家もいくつか知られており、入来家もそうした家のひとつであったのかもしれない。それは、入来家が明治中頃より鉱業部門を有し、鉱山経営をしていたことが「現金出納日記」（資金部・鑛業部・蚕業部等部門別）（目録番号 194）などから窺えるからである。

④その他

この他、『仕込帳』（目録番号 206）には「酒類製造主 入来定穀」との記があり、焼酎の製造も行っていたことが知られる。

⑤耕地整理ほか

明治32年(1899)、耕地整理法が作られると耕地整理の実施が以前より容易となった。また、鹿児島県では、35年2月に排水及び耕地整理推奨規則が制定され、翌年には資金融通の途が拓かれるなど、耕地整理が促進されるようになったという。こうした流れを受けて、大正のはじめ、開墾により冠嶽二俣川に新たな田が開かれた。本史料群に収める、この良田化計画に関する一連の史料(「二俣川耕地整理関係書類一括」目録番号223など)には、許認可申請に関する文書類のほか、各種工事の仕様書・内訳書、図面、工事完了届などが含まれている。なお、この当時、定穀は串木野耕地整理組合の副長であった。また二俣川には定穀橋という石橋が残されていることから分かるように、この事業も定穀の功績のひとつに数えることができるであろう。

この他、本史料群には、上記耕地整理とも関係する明治中期以降の畑地開墾を目的とした原野の払い下げや国有林の払い下げに関する申請書なども何点か残されている。

⑥ 入来定穀とその時代

先にも紹介したように多くの史料に「十一代定穀」と見え、通称「テイコク」と呼ばれた「サダヨシ」は、入来家の中でも特筆すべき人物である。この定穀なる人物は、家系的には伊右衛門の子どもで、重彦の父親となるが、豪快な人物で、モダンな一面があったといわれる。また、県庁の書記を務めるなど地域の大家で、西南戦争の折には従軍し、大分の戦闘の様態などを日記に残している。そして、同時代の人物には、衆議院議員から文部大臣となった長谷場純孝がいたことが知られている。

この定穀の名が今日に至るまで知られているのは、功績や人柄によるところも大きいであろうが、また同時にそれらを伝える『入来定穀日誌』という史料が今日残されており、その足跡を辿ることができるためであろう。この『入来定穀日誌』は、本史料群に収められてはいないものの、現在、鹿児島の方で保管されており、串木野古文書研究会によってその解説が進められている。今後、解説の進行と同時に本史料群の活用なども通じ、入来家や串木野上名周辺の歴史がより一層、実りあるものとなることが期待される。

以上のように入来家が金融業や蚕業・鉱業など手広く事業を展開した時代、それが11代定穀の時代であり、本史料群を構成するひとつの核ともなっている。

文化・教養関係

ところで、本史料群には上記以外にも、文化・教養に属するものが多数含まれていることは注目に値するであろう。その内訳は、武家故実に関する史料や和歌に関連するものなどである。そこで、ここで紹介したいのは、武家故実に関連した一連の史料群についてである。

島津家の礼儀作法は伊勢流で占められており、その研究は進んでいるが、伊勢流は、伊勢武蔵守忠満を祖とし、足利義政に仕えた伊勢貞親以降、代々室町幕府の殿中の作法の指導に当たった武家礼法の流派の一つである。江戸期には貞丈が出て大成されたが、伊勢家の人々の多くは、室町幕府崩壊により凋落し、父祖伝来の故実を諸大名などに披歴することで活路を見出している。その中には島津家により重用された者もいたとされるが、この鹿児島藩で重きをなした伊勢氏は、もとは有川氏といい、伊勢氏一流の名跡を獲得し、名乗りとした。さらに衰微していた本家の再興を支援し、親交を結んだという。この伊勢家と入来家の関係は、詳らかではないが、少なくとも寛政末から享和の頃、「休右衛門」(「習礼抄」目録番号17ほか)や「傳兵衛」(「武

雄書札大概之篇」目録番号 23-1 ほか) といった入来家の人々が、伊勢家による礼儀作法に関心を寄せていたことは残存する史料から認められよう。その内容は多岐にわたるものであるが、女房衆の作法に関するものがやや目立つ印象を受ける。これは推測の域を出るものではないが、既述の入来家と島津家との婚姻関係をめぐる証言と関係があるのかもしれない。いずれにせよ、この一群は武家故実の内容や伝来に関する研究史料のひとつであることには間違いなからう。

形態について

ところで、入来家文書には、内容面に留まらず、形態的にも注目できる史料が含まれている。それは多くの帳簿類で用いられている料紙の大きさについてである。今回の目録作成に当たって、この法量項目に関しては、必ずしも行き届いた精査が行われていないものの、ここに一言付記しておきたい。というのは従来、帳簿類、とりわけ横帳では料紙を折紙状にしたものを束ねることで帳簿が構成されるのが一般的であるが、本史料群で用いられている多くの料紙は、関東や東北など他の史料群のものとは比べ、やや横辺が長いように見受けられたからである。事実、このことは整理作業の過程において、これまでに使用してきた封筒に収まらないという物理的な問題が生じたことから明らかである。勿論、江戸時代の料紙については、地域や時代により和紙の大きさは時代や産地による差違があり、画一的に捉えることはできないことはよく知られている。ただ、上記の事情は同じ鹿児島県地方の文書群で、今回の目録にも収録される「川崎吉左衛門家文書」の帳簿類の多くでも見られる傾向で、この大判の料紙の使用は九州地方の特異性を表しているのかもしれない。こうした観点からの検証も本来の史料整理にあつては重要な要素であろう。今後の検証を俟ちたい。

おわりに

本稿の最初で触れた通り、入来家文書には、漁業（経営）・水産関係についての史料は、ほとんど収められていない。これは当家が漁業や水産業に従事していた事実はないことに由来するであろう。とはいえ、残存する史料は、当家の歴史に留まらず、近世から近代の串木野の歴史の一齣を知ることのできる貴重なものであり、今後の活用が期待される。

最後に末筆ながら、今回の目録刊行と解題執筆に当たっては、入来重光氏、所崎平氏をはじめ多数の方々にお世話になった。この場を借りてお礼を申し上げたい。

(文責 織田洋行)